
全国ネットワークによる 障害者芸術推進事業 報告書

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた
障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク

はじめに

2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク（以下、全国ネットワーク）は 2016 年に発足しました。全国で障害福祉に関わるさまざまな活動が続ける 26 団体の連携が実現しました。

その目的には、

- (1) 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた全国津々浦々の文化芸術活動を通して、我が国の障害者の芸術活動の裾野を広げる
- (2) 障害者の芸術文化が架け橋となって生み出される多様な文化・価値観を認め合う社会を創造する

という 2 点を掲げています。また、2020 年に向けた活動として、

- (1) 構成団体間相互の情報交換活動
 - (2) 障害者の文化芸術活動を推進するための啓発活動及び情報発信事業
 - (3) 構成団体が独自に実施する事業等への共催、後援等
 - (4) その他本会の目的を達成するために必要な事項
- などを行ってまいります。

初年度となる 2016 年度は、(1) 構成団体間相互の情報交換活動を中心に、大きく 3 つの取り組みを実施しました。全国ネットワークに所属する特定非営利活動法人手話ダンス YOU & I をはじめとする、障害者らによるパフォーマンス公演、手話や要約筆記による情報保障、そして各団体の活動状況等をアンケートによって集めました。

本報告書は 2016 年度の活動とアンケートの集計結果についてまとめたものです。本事業の実施にあたり、多大なるご協力をいただきましたすべての皆様に改めて心より感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月

2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク
会長 久保厚子（全国手をつなぐ育成会連合会）







目次

1. 障害者の文化芸術活動をテーマにした文化イベントの開催	
概要	6
(i) スパークリング・ダンス・シアター	7
(ii) 情報保障	9
2. 連携団体に取り組む文化芸術活動の情報共有	
(i) 連携会議の実施／ (ii) アンケート調査の実施	10
(ii)-1 アンケート回答団体の概要	12
(ii)-2 集計結果	34
総括	45

1. 障害者の文化芸術活動をテーマにした文化イベントの開催

[実施概要]

目的 障害者の文化芸術活動をテーマにした文化イベントを、連携団体が協働し実施することで、団体間のさらなる連携強化を図り、障害者の文化芸術活動の裾野を拡大する。

内容 全国で文化芸術活動を実践する団体の発表や文化芸術の鑑賞機会の提供を通して、障害者の文化芸術活動の推進に資する文化イベントを実施する。

i. 発表機会の創出

車椅子ダンスのグループなど、全国で文化芸術活動を実践する団体の発表機会を創出する。

ii. 鑑賞機会等の提供

iと同会場で開催される展覧会、コンサート、アール・ブリュット国際フォーラム等の主催者と連携を図り、障害者が文化芸術に触れやすく、参加しやすい環境を整え、鑑賞機会の提供を行う。

実施期間 平成29年2月10日（金）、11日（土）

実施回数 i. 発表機会の創出 ダンスグループ等の発表 1回（3団体）
ii. 鑑賞機会等の提供 同時開催プログラムの情報保障を提供 2日間

実施場所 びわ湖大津プリンスホテル・コンベンションホール

対象者 障害者及びその家族、支援者等 300名

スタッフ構成 連携団体担当者3名、事務局職員3名、連携団体各支部職員20名

連携団体の役割 文化イベント内容の企画立案、運営及び周知広報

広報 連携団体の全国各支部への周知

SPARKLING DANCE THEATER チラシ



(i) パフォーマンスイベント「スパークリング・ダンス・シアター」

日 時 平成 29 年 2 月 10 日 (金) 16:20 ~ 17:45

出演者

手話ダンス YOU & I

NPO 法人手話ダンス YOU & I はボランティア精神に基づいて行動し、手話ダンスを通してより多くの人が手話に親しみ、障害者の方へ理解を深めていただくきっかけになることを願って活動しています。障害のある方も一緒に楽しむことにより共に生きる喜びを持つことを目的としています。全国で活動しており、東京近郊37サークルと地区サークルがあり、会員1400名余により日々の活動を行っています。

手話ダンスとは、手話を使って歌詞のイメージを見る言葉に変え、リズムの楽しさと合わせて踊りにしたものです。聴覚障害を持った方が、見てわかる、踊って楽しめるように、そうした思いから作り出されました。

今ではいろいろな障害を持たれた方々も聴障者の方との交流の中から「助け合って生きていこう」という気持ちで楽しく踊っています。詩の心を手話で優しく温かく表現できる楽しさや喜びがあり、一曲の詩からたくさんの手話が覚えられ、楽しくなります。

一歩前に踏み出す勇気を与えてくれる…それが手話ダンスです。

WEB <http://www.syuwadance-you-and-i.jp/index.html>



コンテンポラリーダンス 湖南ダンスワークショップカンパニー

「湖南ワークショップ」は、障害のある人と、プロのダンサー、さらには福祉施設のスタッフで構成されるダンスチームです。ワークショップが開催される日、町のコミュニティセンターに、あるいは参加メンバーの所属する福祉施設の多目的室に、メンバーが徐々に集まりだし、特に何の合図もなく、ごく自然にダンスが始まります。

じっくり動き始める人、俊敏に動く人、“何か”を声で発している人 etc…湖南ワークショップには様々な個性を持つ人たちが集まっています。そういった人たちが、時には独りでもくもくと、時には誰かとパートナーを組んで一対一で、そして時には全員で息を合わせ、各々の個性を輝かせながら、踊ります。そこでは、障害の有無など関係なく、誰もが「ダンサー／表現者」として向かい合っている、湖南ワークショップはそんなボーダレスな瞬間に溢れています。

彼らの日々の成果は、糸賀一雄記念賞音楽祭でのステージで発表されてきました。さらに、2016年にはフランスのナント市から招へいされた振付家であるクロード・ブリュマシオン(フランス国立振付家センター・ナント 前ディレクター)とのコラボレーション作品を発表しました。



車椅子ダンス ジェネシスオブエンターテインメント

ジェネシスオブエンターテインメントは平成9年に設立し、車いすダンスなど文化芸術活動を通じて、障害のある人が、車いすダンスを「生きがい」から、自分で生活を支えるための新しい「職業」へとしていくことを目指して活動をしています。現在車いすダンス教室の開催や学校講演会などを中心にメンバーたちが活躍しています。

1999年1月、読売新聞社(財)読売光と愛の事業団より「第19回福祉活動奨励賞」を受賞。2006年11月大阪府草の根人権活動奨励賞、2007年11月第33回産経市民の社会福祉賞他を受賞。2013年より文化庁文化芸術による子供の育成事業との連携により、ここ奈良県、大阪府などの小中学校へ車いすダンス芸術鑑賞で訪問する活動が開始できました。

2016年6月2日総理大臣官邸にて、日本ではじめて総理大臣の前にて車いすダンスを披露する。活動20年目に入り、世界車いすダンススポーツ選手権大会8位、アジアチャンピオン、2014インチョンアジアパラリンピックへ日本代表選手を輩出しています。

WEB <http://www.genesis-art.com/>



考察

今回の「スパークリング・ダンス・シアター」では、3つの団体が手話ダンス、コンテンポラリーダンス、車椅子ダンスの作品を発表した。

1番目に発表した「手話ダンス YOU&I」は、障害のある人もない人も共に活動を行っていることが特徴である。聴覚障害を持った方が、見てわかる、踊って楽しむことを目指して、手話を使って歌詞のイメージを見る言葉に変え、リズムの楽しさと合わせて踊りにしている。

今回の作品発表には、聴覚に障害のある方や、知的に障害のある方、障害のない方が共に出演した。身体で言葉を表現する手話が、リズムやメロディーと同期することで、新しい表現分野が生み出されている。そして、障害のある人が気軽に参加し、表現者として活動できる場が作りだされていることを紹介した。

2番目に出演した、湖南ダンスワークショップカンパニーの主なメンバーは、知的に障害のあるダンサーである。加えて、ナビゲーターと言われるプロのダンサー、支援者もダンサーとして参加している。また、このグループの特徴は、プロの音楽家の生の即興演奏とコラボレーションしているところである。各々の身体の動きや音楽家が奏でる音が呼応して、全てのダンサーが身体表現をその場で生み出している。細かな振り付けは存在しない、いわば一期一会のダンスである。しかし、各々が勝手に踊るのではなく、大きな船に乗って大海に向かう、みんなで釜風呂に入る、巨大な花が咲くなど、物語やシュチュエーションがイメージとして共有されている。即興による個々の動きは、物語が進むにつれて群舞となり、ダンサーたちの共感が、言葉を超えて観客に伝播していく作品発表となった。

最後に出演したジェネシスオブエンターテインメントは、身体に障害のある方らが、車イスダンスの作品を発表した。このグループの特徴は、車いすダンスを「生きがい」から、自分で生活を支えるための新しい「職業」へとしていくことを目指したダンスグループとして様々な活動を行っているところである。

軽快な音楽、激しいビートにあわせて、身体と車椅子が一体となり激しいダンスが繰り広げられ、身体的表現の可能性を切り開き、芸術表現へと昇華することを感じるパフォーマンスであった。

今回のステージで、上記の3つの異なる表現手法を発表することによって、表現の多様性を紹介することができたことは成果であった。障害の有無にかかわらず身体表現を行う上で大切なことは、表現したいことを自らがイメージすることである。

手話はその動きに明確な意味をもち、ダンサーがその意味をイメージして表現する。コンテンポラリーダンスは感じたことを感じたままに表現する。車いすダンスは身体の可能性をダンスで表現する。これらの表現が、ステージという非日常の舞台上に上がり観客と向き合うことで、芸術表現が生まれると考えられる。

今回のステージは、誰もがダンサーとして表現者になれるということを観客とともに共感し得る場となった。

(ii) 情報保障

日時	プログラム	手話通訳	要約筆記
平成 29 年 2 月 10 日(金) 10:00 ～ 16:00	障害者の芸術活動支援モデル事業実践報告会 アール・ブリュット国際フォーラム 2017 ①	6 名	4 名
平成 29 年 2 月 10 日(金) 16:20 ～ 17:45	パフォーマンスイベント 「SPARKLING DANCE THEATER」	2 名	2 名
平成 29 年 2 月 11 日(土) 9:30 ～ 17:15	アール・ブリュット国際フォーラム 2017 ②	6 名	4 名
平成 29 年 2 月 11 日(土) 19:15 ～ 21:15	スペシャルコンサート「きたやまおさむ×白井貴子」	2 名	2 名

考 察

障害者の文化芸術活動をテーマにした文化イベントでは、全国で文化芸術活動を行う団体の発表機会を創出することと同時に、障害者が文化芸術にアクセスできるよう鑑賞機会の提供を行った。具体的には、滋賀県立聴覚障害者センターの協力を得て、手話通訳と要約筆記を派遣してもらい、各プログラムで必要に応じて対応できる環境を整えた。

今回、「スパークリング・ダンス・シアター」は、期間中に開催された文化芸術関連の講演会やシンポジウム、コンサートなどと同時開催で行われており、それらのプログラムにも手話通訳と要約筆記を手配することで、聴覚障害者が誰でも参加できるようにした。手話通訳と要約筆記の派遣にあたり、センターの担当者と事前に打ち合わせを行い、2日間のプログラム進行、ステージでの出演者の位置や発表形式などを入念に確認したうえで、対象者を全体とするか個別とするかなど対応を検討した。各プログラムにおいて、手話通訳は2～6名、要約筆記は2～4名を派遣してもらい、当日の会場入り口には大きく「情報保障について」と対象者への案内を掲示し、希望者を情報保障席へ案内した。

今回、複数名の聴覚障害者から事前に情報保障の有無に関する問合せを受けていた。情報保障を行うことで、その方々や連絡なしで来場された聴覚障害者に対して、様々な文化芸術イベントに参加してもらうことができた。また、一般の方からは、ステージに立つ手話通訳者を見ることで、聴覚障害者が文化芸術イベントに参加していることに気づくことになったという声や、要約筆記で登壇者の講演内容が端的にまとめられ表示されることが非常に分かりやすかったという感想をいただいた。これらのことから、情報保障に対応することは、聴覚障害者や一般の方にとって非常に満足度が高い取り組みとなることが分かった。今後もこのような取り組みを続けていくことは、聴覚障害の有無に関わらず一緒に文化芸術を楽しむ社会をつくることに繋がると考えられる。



2. 連携団体が取り組む文化芸術活動の情報共有

それぞれの連携団体が、各団体に所属する会員等の文化芸術活動を情報収集し団体間で共有することにより、新たな文化芸術活動を知り発信する機会を創出するとともに、さまざまな障害者のニーズに則した文化イベントのあり方を検討する。

(i) 連携会議の実施

情報収集に関する進捗を確認するとともに、各団体が取り組む事業の共有を図るため、定期的に（合計2回）会議を開催する。

第1回会議 日 時：平成28年12月15日（水）14:30-16:30

場 所：TKP スター貸会議室 東京駅八重洲 301号室

参加団体数：23 団体（出席者数 25 名）

内 容：本ネットワークに参加する全26団体のうち23団体が参加して、第1回目の会議を開催した。冒頭に事務局である全国手をつなぐ育成会連合会の久保会長からご挨拶があり、出席者の自己紹介を行った。その後、事務局から社会福祉振興助成事業で行う文化芸術活動のアンケート実施について、調査項目や実施スケジュールなどについて説明した。ネットワークに加盟する団体から全国の支部などと連携し、できるだけ多く回収するための協力を要請した。

第2回会議 日 時：平成29年2月9日（金）15:30 - 16:30

場 所：びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール淡海 石楠花1

参加団体数：19 団体（出席者数 22 名）

内 容：最初に、事業の進捗状況について、パフォーマンスイベント「SPARKLING DANCE THEATER」の実施について報告した後、12月中旬～1月末にかけて実施したアンケート調査の中間報告を行った。各団体が取りまとめた調査結果を確認し、担当者から回答結果の傾向や共有しておきたい事柄などについて補足説明を行った。26団体及びその支部等の活動調査の最終的な取りまとめは事務局が行い、結果を報告することとした。

(ii) アンケート調査の実施

団体の各都道府県支部及び所属会員等が、どのような文化芸術活動を実施しているか、各団体が情報を収集する。また、障害者の文化芸術活動の推進に資する文化イベントのあり方等について、構成団体のニーズをアンケート調査する。

実施スケジュール アンケート内容案の検討：平成28年11月

アンケート内容の決定：平成28年12月初旬 連携会議にて決定

アンケート実施・集計：平成28年12月中旬～平成29年1月

対 象 者 全国ネットワーク参加団体委員（連携団体）

実 施 方 法 事務局がアンケート項目を作成し、各団体へ配布。各団体では、それぞれ所属する都道府県支部や事業所、個人等に配布した。集計は、各団体ごとに支部等の回答を集約し、事務局が全団体の回答を集約しまとめた。

回 答 数 22 団体 407 件（全国の都道府県支部、事業所等）

障害者の文化芸術活動に関するアンケートについて

目的

全国ネットワークの連携団体における文化芸術活動の、実態と意識をアンケートすることで、文化芸術活動状況を把握するとともに、その成果を連携団体間で共有・発信する。加えて、障害者の文化芸術活動を推進するために必要な取り組みを検討するための基礎資料とする。

アンケート項目

【活動実態調査】

1 貴団体・貴会に・貴支部おける、文化芸術活動の状況についてあてはまるものに○を付けてください。(複数選択可)

- (1) 団体・会・支部・事業所等が主催する文化芸術関係の催し物(文化芸術活動の発表等)がある(あった)

⇒該当する場合、内容と開催頻度を教えてください

内容:

頻度: 回/年・月 / 不定期 / 今はやっていない

(例) 内容: 会員が制作した作品の展覧会「〇〇〇展」 頻度: 1 回/年

- (2) 団体・会・支部・事業所等が主宰する文化芸術関係のサークル等の活動がある(あった)

⇒該当する場合、内容と活動頻度を教えてください

内容:

頻度: 回/年・月 / 不定期 / 今はやっていない

(例) 内容: ダンスサークル 頻度: 2 回/月

- (3) 団体・会・支部・事業所等が企画する文化芸術鑑賞の機会がある(あった)

⇒該当する場合、内容と企画頻度を教えてください

内容:

頻度: 回/年・月 / 不定期 / 今はやっていない

(例) 内容: ジャズコンサート鑑賞 頻度: 不定期

- (6) その他 ()

【ニーズ調査】

3 貴団体等において新たに、または更に文化芸術活動をするとしたら、どのような活動を望まれますか？(複数選択可)

- (1) 会員が制作した芸術作品の展覧会の開催
- (2) 公募展の開催
⇒公募の範囲は? 全国 / 都道府県 / 圏域 / 市町村
公募の対象は? 同じ障害のある人たち / 障害種別を問わない/
障害の有無を問わない
- (3) ダンスや音楽等表現の舞台発表会の開催
- (4) サークル、教室等、会員が活動する場の主宰
⇒どんな活動をイメージしますか?
絵画 / 造形 / ダンス / 音楽(歌) / 音楽(楽器) /
書道 / 写真 / 演劇 / その他 ()
- (5) 鑑賞会の企画
⇒どんな鑑賞会をイメージしますか?
美術展 / 音楽コンサート / ミュージカル / 演劇 /
ダンス / バレエ / オペラ / 歌舞伎 / 文楽 / 能/
映画 / その他 ()
- (6) 文化芸術に関する複合的なイベントの開催
⇒どのようなイベントをイメージしますか?
- (7) 障害者の文化芸術活動の成果の商品化など
⇒どのような取組をイメージしますか
(例: 造形作品の販売会の実施、)
- (8) その他 ()
- (9) 新たな(更なる)活動は望まない

4 問3で(1)~(7)を選択した団体等にお尋ねします。どのようなことがあったら、そのことが実現すると思いますか？(複数選択可)

- (1) 予算があったら
- (2) 専門知識を持つ人からのアドバイスが得られたら
- (3) そのことを担当するスタッフを配置できたなら
- (4) 指導者が確保出来たら
- (5) 周囲の理解・協力が得られたら
⇒具体的にどのようなことが得られたら良いですか?
()

※上記(3)の鑑賞機会については、外部が主催する展覧会や公演等に参加、もしくは外部の芸術団体等を招いて行う公演等についてご記載ください。

- (4) 団体・会・支部・事業所等が発行する機関誌(紙)や書籍、ホームページで作品や写真の紹介をするなど、文化芸術活動に関する情報の発信をしている

⇒該当する場合、その内容を教えてください

- (5) 団体・会・支部・事業所等が取り組む、造形作品等の販売企画・デザイン企画などを行っている

⇒該当する場合、その内容を教えてください

- (6) 団体・会・支部・事業所等が主催、企画する文化芸術関係の活動はない

⇒該当する場合、その理由を教えてください(複数選択可)

- (1) ニーズがないから
- (2) 予算がないから
- (3) 体制的に厳しいから
- (4) 何をしてよいかわからないから
- (5) 周囲の協力が得られないから
- (6) その他 ()

2 問1で(1)~(3)を選択し、頻度として「今はしていない」と回答された団体等にお尋ねします。その活動がなくなったのはどのような理由からですか?

- (1) 助成がなくなったから
- (2) 活動を支えていたスタッフや指導者がいなくなったから
- (3) 体制が厳しくなったから
- (4) ニーズがなくなったから
- (5) 活動場所の確保ができなくなったから

- (6) 団体等内の合意が得られたら

- (7) その他 ()

【情報発信について】

5 貴団体等に関する情報(文化芸術活動に限らない全般的な情報)を、会員や外部と共有する方法としてどのような手段をお持ちですか？(複数回答可)

- (1) 団体等のホームページ
- (2) SNS
(Facebook / LINE / Skype / Instagram / Ameba
その他)
- (3) 会員向けのメールマガジン
- (4) 機関紙、会報の発行 (発行頻度: 回/月・年)
- (5) 電子メールで個別送信
- (6) 電話による連絡網
- (7) 定期的な会合での伝達 (開催頻度: 回/月・年)
- (8) その他 ()

【今後の取組について】

6 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障害者が活躍する、どのような文化イベントが開催されるとよいとお考えですか。

7 全国ネットワークの各団体が連携して、どのような文化イベント等に取組んでいくのが良いとお考えでしょうか。

(ii)-1 アンケート回答団体の概要

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

1. 団体の概要・目的

昭和 33（1958）年 6 月創設。全国の都道府県・政令指定都市の身体障害者を中心とする 63 当事者団体と中央の 2 障害種別団体（公益社団法人日本オストミー協会、一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会）の 65 団体で構成。障害者の立場から、人権の保障、社会参加の促進、すべての人の社会“Society for All”の実現をめざしています。障害の種別や有無にとらわれず、全国組織のネットワークをいかし、国や政党等への要望や政策提言など幅広い活動を行っています。全社協障害関係団体連絡協議会や日本障害フォーラム（JDF）の構成メンバーとしても活動しています。

主な事業として、障害者の更生相談に関する事業や障害者に係る社会福祉事業に関する連絡及び助成を行う事業のほか、障害者の福祉推進のための啓発、普及及び情報の収集提供、福祉機器の普及、障害者相談員等の研修、障害者社会参加促進等福祉推進のための事業等を行っています。その他、障害者相談員活動事例集やハンドブック出版のほか、月刊機関紙『日身連』や年刊『相談員会報』を発行しています。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 47 団体

3. 団体に所属する個人の数

約 2 万人

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問 1 の回答より抜粋）

演劇祭典、写真コンテスト、将棋大会、文化要請講座、文化講演会、トークショー、手話コーラス、手話ダンス、手話劇、和太鼓、手話落語等。サークル活動は、写真、美術、劇団、手話、健康体操等。

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

- ・バリアフリーが整った施設で、人気芸能人に広告塔になってもらい集客し、プロの照明、音響を使用し、舞台表現できるものを一気に発表する。
- ・写真、絵画、工芸などは、プロで活動している人と趣味で活動している人を分けて企画したほうが良いと考える。

社会福祉法人 日本盲人会連合

1. 団体の概要・目的

日本盲人会連合は視覚障害者自身の手で、“自立と社会参加”を実現しようと組織された視覚障害者の全国組織です。1948年（昭和23年）に結成された、都道府県・政令指定都市における61の視覚障害者団体の連合体で、国や地方自治体の視覚障害者政策－人権、福祉、教育、職業、環境問題等－の立案・決定に際し、視覚障害者のニーズを反映させるため、陳情や要求運動を行っています。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 47 団体

政令指定都市単位 14 団体

3. 団体に所属する個人の数

延約5万人

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問1の回答より抜粋）

各地区で文化祭やサークル活動の発表会の開催。俳句・短歌、オカリナ、邦楽、民謡、カラオケ、ダンス、合唱・コーラス、囲碁・将棋、UD映画、手芸、料理、生花、茶道、漢点字等のサークル活動。

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問6、7の回答より抜粋）

- ・障害者の国際的な理解を得るために、サイトワールドのようなイベントを開催。
- ・障害を持ったミュージシャンやアーティストに関する情報提供。
- ・健常者と障害者が一緒に発表する機会。
- ・障害者も楽しめる良質な文化イベント。
- ・式典等への参加（聖火ランナー、開会式・閉会式のテーマ曲等を障害者が担当する等）。
- ・東京だけでなく、地方でも国際的なコンサートや舞台芸術を開催してほしい。

一般財団法人 全日本ろうあ連盟

1. 団体の概要・目的

全日本ろうあ連盟は、全国 47 都道府県に傘下団体を擁する全国唯一のろう者の当事者団体です。その目的は、ろう者の人権を尊重し文化水準の向上を図り、その福祉を増進することです。基本的な取り組みは次の通りです。

1. 手話通訳の認知・手話通訳事業の制度化
2. 聴覚障害を理由とする差別的な処遇の撤廃
3. 聴覚障害者の社会参加と自立の推進

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 47 団体

3. 団体に所属する個人の数

約 2 万人

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問 1 の回答より抜粋）

演劇祭典、写真コンテスト、将棋大会、文化養成講座、文化講演会、トークショー、手話コーラス、手話ダンス、手話劇、和太鼓、手話落語等。サークル活動は、写真、美術、劇団、手話、健康体操等。

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

- ・バリアフリーが整った施設で、著名人を呼ぶことで集客し、プロの照明、音響を使用し、舞台表現できるものを障害別にまとめて発表する。
- ・写真、絵画、工芸などは、プロで活動している人と趣味で活動している人を分けて企画したほうが良いと考える。

一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会

1. 団体の概要・目的

当会は、北海道から沖縄まで全国 47 都道府県単位に「肢体不自由児者父母の会」を設け、その活動の集約と組織的連携をはかるための連合体です。

肢体不自由児者並びに重症心身障害児者に関する事業を行い、福祉増進に寄与することを目的とし、目的を達成するために本邦及び海外において以下の事業を行っています。

- (1) 肢体不自由児者が地域で普通に暮らすことができる環境をつくる
- (2) 肢体不自由児者福祉に関する社会的啓発
- (3) 肢体不自由児者福祉に関する調査研究
- (4) 支部父母の会育成強化に関する知識の普及と助成
- (5) その他目的を達成するために必要な事業

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 47 都道府県肢連 7 ブロック

3. 団体に所属する個人の数

—

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問 1 の回答より抜粋）

作品コンクール・各種展示会（絵画・習字・写真・手芸品・陶器類）、各種コンサート（歌・吹奏楽・太鼓・ハンドベル・コーラス・クラシック）、陶芸、療育の音楽、さおり織展、芸術文化祭等。サークル活動は、ダンス、音楽（太鼓・ハンドベル・合唱）、創作系（七宝焼、手芸、陶芸・絵画、習字）、詩吟、ミュージックケア（音楽療法）、さぬきロックンロール・サーカス、フライングディスク、ボーリング、スイミング等。

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

- ・文化展、パラリンピックと併合の芸術祭。
- ・一定、メディア等で注目を集める部分も必要。その中でも障害のある人やそのご家族の「生活実態や課題」にも着目していただき、障害理解や差別解消も取り上げるとよいのではないか。
- ・国や都道府県、全国ネットワークが協同で継続実施し、全国的に目に留まるイベントを展開していくと良い。
- ・PR キャラバン隊を編成し、全国津々浦々をリードしていくようなイベント。
- ・文化イベントは特別に障害者と分けて考える必要がなくなる方が良いのではないかと感じる。
- ・障害者が気軽に楽しく参加できるイベント。障害の有無にとらわれない合同のイベント。
- ・移動できない方が多いので区内の施設や公共の建物（役所か体育館など）にお越しいただけると参加できるかと思う。
- ・障害者の中でどのような方々が活躍しているのか広めていただき、全国で同じような活動をしている人々が集まり、イベントにつながるとよい。
- ・地域生活の切実な課題（生活の基盤・生命・生存の安心と安全）の上に、文化芸術活動（自己実現・自己表現・QOL の向上）もあるのではと思う。障害理解が広がることは大切だが、とりわけ老障介護と呼ばれる課題について、まず地域生活の基盤を整えることに優先順位があるべきではないか。

社会福祉法人 全国重症心身障害児（者）を守る会

1. 団体の概要・目的

昭和39年6月13日に結成。社会に重度重複の心身障害児（者）の存在を明らかにし、まわりの強い差別意識に耐えながら、福祉の施策にとり上げてもらうことを願って活動を始める。同時に、医師、看護師等専門家による班を独自に編成、家の中に閉じこもって悩んでいた都内及び近県の重症心身障害児者の家庭を回って、療育相談・指導を実施した。

以来、「最も弱いものをひとりももれなく守る」等の三原則を基本理念として、親の意識の啓発に努め親自身が義務と責任を果たすとともに、社会の方々のご理解をいただく運動を行っている。

また、会の機関誌として「両親の集い」（月刊）を昭和39年の発足以来発行し、親（保護者）や関係者に重症児者に関する問題の啓発と情報を提供している。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 47 団体

3. 団体に所属する個人の数

1 万 1,000 人

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問1の回答より抜粋）

作品展示会、パステル画の制作と展示会、車いすダンス、コンサート（ピアノ・声楽など）の開催、クリスマス音楽鑑賞会等。

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問6、7の回答より抜粋）

- ・ダンスや合唱などそれぞれの障害者の得意とする分野で活動している団体などが集い、開会式や受け付け、閉会式などでその時々によりPRする。
- ・音を楽しむために、楽器（打楽器）等を利用して音作りコンサートのイベント。
- ・障害のある人とない人が音楽を通じて楽しみ、理解を深めるコンサートの実施。
- ・絵画等芸術作品展。
- ・表現したいものを持っている障害のある人が、参加しやすい形のイベントがあればいいと思う。
- ・重症児・者も参加できるような音楽を中心としたイベント。
- ・パラリンピックの開会式に重症児・者たちも参加したい。心のバリアフリーを唱えたい。
- ・市民マラソンで5キロほど、親が障害の子の車いすを押して参加している。
- ・重症児・者も「一緒に参加している」と達成感が得られるようなイベント。会場壁面のペインティングや手形、足形等で飾るなど。
- ・各団体のアピールとして障害者の実態を表現できるように映画を作る。
- ・単独では人が集まらないので、現在行っている全市、全区的な春祭りや夏祭りなどに参加するのが理想。
- ・全国大会、ブロック大会での作品展示ブースを企画したかどうか（ICTの活用）。
- ・聖火リレーのような日本列島横断（北と南が東京で合流）。文化的イベントの開催。
- ・最も重度の人を中心とした、誰でも参加できる音楽コンサート等。
- ・重症児・者の参加はなかなか難しい。展示や映像のPRはできると思う。

全国手をつなぐ育成会連合会

1. 団体の概要・目的

全国手をつなぐ育成会連合会は、知的障害のある子どもの親と関係者が「わが子にも教育を」「わが子にも人権と幸せを」と願って設立した会です。全国の55団体(47都道府県育成会と8政令指定都市育成会)が正会員となり、市区町村単位に支部を結成しており、全国で約20万人の個人会員がいます。知的障害者の権利擁護と政策提言を重点課題として、インクルーシブ教育の推進、就労支援、地域生活支援および家族支援の強化などの活動を行っています。当会の前身に当たる社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会が解散し、知的障害児・者の教育・福祉の向上のための運動を進める地域連携を強化した正会員の連合体として、2014年7月24日に新しく設立しました。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 47 団体 政令指定都市 8 団体

3. 団体に所属する個人の数

約 20 万人

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問1の回答より抜粋）

レクリエーションの集い、芸術祭・文化祭、音楽（バンド・歌・吹奏楽・太鼓・ハンドベル・コーラス・バイオリン、ゴスペル、ピアノ）、ダンス、作品展、サークル活動の発表会・展覧会（絵画、造形、写真、書道）、子供向け映画会等。

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問6、7の回答より抜粋）

- ・障がい者本人たちのライブ、合唱コンサート。大写真展・書道展・絵画展・巡回展。
- ・障害が重くてもイキイキ参加できるイベント。
- ・パラリンピックと併合の芸術祭。
- ・障害者に限らず一緒に楽しめるイベント。日頃からの情報共有・柔軟な取り組み。
- ・和太鼓の演奏、合唱、ダンス、絵画・書道・造形、障害を強調せずに活動を伝える。
- ・オリパラに参加できない人向けのスポーツ・文化的イベント。
- ・開会式・閉会式に参加。複合的なイベントの同時開催。
- ・県の文化プログラム推進協議会に障害者文化芸術部門を提案。
- ・音楽（歌・楽器）、美術展。
- ・地方にも参加しやすい機会を設ける。全国規模での作品展示会。障害者が協力して作品づくり。
- ・単発でなく継続した取り組みができる指導者育成・活動拠点づくり。
- ・全国障害者芸術・文化祭の盛り上げ。
- ・PR活動、地域・県域での掘り起しをサポート。
- ・障害者の文化活動の意義を啓発し、理解が深まるイベント構成。

1. 団体の概要・目的

知的障害者の自立と社会・経済活動への参加を促進するため、知的障害者の支援及び知的障害者の福祉の増進を図ることを目的とし、具体的に次の事業を行う。

- (1) 知的障害に関する調査研究を行い、その結果を報告する。
- (2) 知的障害関係施設・事業所における支援並びに運営の充実に係る指導を行う。
- (3) 知的障害福祉の啓発普及を目的に、研修会等を開催する。
- (4) 社会福祉士及び介護福祉士法に基づき、養成所を運営し専門的な知識・技術並びに確固たる倫理観を有する社会福祉士を養成する。また、施設・事業所職員の資質の向上を図るため、養成研修を行う。
- (5) 知的障害福祉に係る専門図書の刊行及び研究誌を発行し、広く国民に対して知的障害福祉の啓発普及を行う。
- (6) 関係機関並びに関係団体と連携し、知的障害福祉の向上に寄与する。
- (7) 地震・台風等の自然災害により被災した知的障害者、その家族並びに知的障害者が利用する施設・事業所へ必要な支援を行う。
- (8) 全国の知的障害関係施設・事業所の職員を対象とした相互扶助事業及び知的障害関係施設・事業所を対象とした保険事業を実施することにより、知的障害関係施設・事業所の経営の安定に貢献する。
- (9) 知的障害福祉に顕著な業績を残した者を表彰する。
- (10) その他、目的の達成に必要な事業を行う。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県 47 団体 市町村 9 団体

3. 団体に所属する個人の数

約 6,200 事業所

4. 文化芸術活動の取り組み状況

芸術祭、知的障がい者を対象とした公募展（展示部門（絵画、陶芸等）とステージ部門（ダンス、器楽演奏等）に分けて募集しコンテスト方式で表彰）、音楽活動発表会、施設製作品展示事業、ボーリング大会（ブロック、中央）、会員事業所の利用者制作による作品展、プロによる舞台芸術の鑑賞、関係団体主催の「糸賀一雄記念賞音楽祭」「障害者アート展」「ぴかつ to アート展」の開催に協力等。

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

- ・現在行っている活動やイベントについて広く周知する。
- ・パラリンピックに合わせたスポーツをテーマとした芸術展の開催。
- ・パラリンピックだけでなくオリンピックとのタイアップは有効な手段と考えられます。逆に障がい者に限定したイベントは、好ましくないと考えます。
- ・障がいがある無しにかかわらず、お互いに人格や個性を尊重しあいながら地域で安心して暮らすことのできる社会（共生社会）を目指し、コラボレーションを行い、音楽や芸術をとおして交流・発信の場を広げ文化振興に取り組めるような文化イベント。
- ・より多くの障害者のある方々が、「参加してよかった」と心に残るような、「参加型」のイベントを望む。
- ・障がいがあることを前面に出すのではなく、個性の一部として捉える取組み
- ・イベントに関する情報発信について、多くのメディアの参入を望む。
- ・日本の芸術も世界の方にみてもらいたい。障害者のかたの作品（絵画・オブジェ・書道・写真等）の展覧会。
- ・団体の垣根を越えた文化イベントの開催。
- ・イベントに関する予算の捻出に関して、国や地方自治体から補助を受けやすくしてほしい。
- ・障害者の文化芸術活動には、さまざまな団体などにより実施が進められてきているが、関係者だけのイベントにならないためにも、多くの住民の参画を得ながらの運営することが必要であると考えます。
- ・社会全体で「一緒に参加できる」「一緒に楽しめる」イベントを手掛けていくことが大事に思います。

特定非営利活動法人 全国地域生活支援ネットワーク

1. 団体の概要・目的

1980年代から急速に広まった「レスパイトサービス」の普及のために（当初は「平成桃太郎の会」という地域福祉を阻む「鬼」を退治するといったコンセプト）全国各地で各地で研究会やフォーラムを開催したことから「全国地域生活支援ネットワーク」の活動はじまった。

1999年に「全国地域生活支援ネットワーク」と名称を変更し、全国各地でのネットワークづくりや研修会、フォーラムを継続する一方、「アメニティーフォーラム」を企画。滋賀県大津市において毎年開催し、現在は1500名を超える規模のフォーラムと成長している。

障害福祉サービスの充実のための政策の提言や障害者芸術活動の振興、バリアフリー映画の普及、人材養成のための研修会の開催、テキスト編集、出版などの活動も行っている。

[目的：定款より]

私たちは、「ユニバーサルな支援による、ともに生きる地域社会づくり」を目指している。その実現のために、地域生活支援をより一層推進し、全国の当事者や事業者、行政、政治など、関係者の横のつながりを深め、国民的な理解と共感を広げられるよう活動を展開していきたい。そして、「ひらかれた議論」と「パートナーシップ」を基本とした新しい運動体として社会の中でその役割を担い、全ての人がともに生きる社会をつくることを使命とする。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

市町村単位 43 団体

3. 団体に所属する個人の数

市町村単位 17 人

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問1の回答より抜粋）

コンサート（和太鼓等、ロックライブ）、リズムワークショップ、ミュージックワークショップ、福祉事業所利用者・生活介護利用者等による展覧会、アートカフェ、作品展示（町中の店舗、公募展、参加型展覧会、大学主催の展覧会へ参加、常設展、美術館での展示等）、大人の放課後クラブ、セミナー（権利擁護セミナー、ベーシックセミナー）、陶芸・織り・木工体験、アトリエ活動等。

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問6、7の回答より抜粋）

- ・トーチラン、開会式、閉会式等式典への参加や関連イベントの開催。
- ・多くの人に見てもらえる大きなホールでの展覧会、パフォーマンスショー、劇団など。
- ・2020年までに限らず継続的に取り組む。
- ・地域のイベントとタイアップもしくは、障害者に限定しない内容で幅広く障害者の芸術に触れる機会がある内容。
- ・全国のまた、海外の同じようなことに取り組んでいる人たちと出会い、その人たちと一緒に展覧会、音楽、ダンスなど、いろいろなことをしながら絆を深めていくことが出来るイベント。
- ・障がい者の人たちと作る「わかりやすい街」作り。公共空間の整備に連動した看板等や地図などのデザインとともに、アートプロジェクトを活用した場所の感覚の実感を強化していくイベント。
- ・アート、舞台表現など、当事者を主役とした障害が、ユニークですばらしい個性と感じられるイベントをボーダレスに行うと思う。
- ・各地で加盟団体の連携した発表の場の開催（できれば定例・システム化）・上記開催のためにコーディネート事業所（団体）が中核となり、定期開催・継続性のため、コーディネート団体が自治体とも連携し、まちづくりや地域活性化にもつながる波及効果、費用対効果のより高いものに進化させていく方向性と取り組み・作曲や楽曲について著作権等権利擁護とビジネスモデル構築に向けた調査研究と実際の管理、運用へのアドバイス。
- ・年に数回、全国の作品を集めた大きな展示会を行う。各事業所や団体のアートの取り組みについて情報共有。
- ・各団体の得意分野での連携および、異分野での合同発表や会合があると良い。

1. 団体の概要・目的

本協会は、精神保健・医療・福祉領域での業務経験を有する者が集い、精神科看護領域の学術の振興を図り、その成果を活用することで、精神的健康について支援を必要としている人々が安心して暮らせる社会をつくっていくことを目的とする。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 47 支部

事業所単位 3 事業所

3. 団体に所属する個人の数

都道府県単位 37,953 人

事業所単位 7 人

4. 文化芸術活動の取り組み状況

—

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か
(アンケート問 6、7 の回答より抜粋)

- ・楽しいイベント。音楽やダンスのパフォーマンスイベントは皆さん、参加しやすく、障がい者への理解も深まると思います。
- ・どんなイベントでもいいですが、全国組織の強みを活かして、東京だけでなく、いろいろな地域で開催できるといいと思います。

1. 団体の概要・目的

本協会は、自閉症スペクトラム障害の人達に対する福祉の増進及び社会参加の促進を図り、広く社会に貢献することを目的とする。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 47 団体

市町村単位 3 団体

3. 団体に所属する個人の数

都道府県単位 1 万人

市町村単位 2000 人

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問 1 の回答より抜粋）

自閉症啓発デー展示（全体）、作品展、マリンバ・コンサート、音楽サークル発表会、和太鼓演奏、ドラムサークル、墨絵教室、ミュージック・ケア（鳴子や鈴等を使いダンス）、工作教室、よさこい練習会、アートスクール、書道教室

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

- ・障害の種別を越えて参加できるフェスティバル、障害者と健常者が一緒に行う催し等。
- ・作品の展示・発表の機会など。
- ・ダンスや楽器等演奏、鑑賞。
- ・個々の能力、持てる力、それぞれ違うこと、どんなに小さくて一般の方にはありえない事でもその方が一生懸命努力していることが理解できるようなイベント。
- ・全国各地での作品巡回展や発表会。地方都市では、世界的に有名なアールブリュットなどに触れる機会が少ない。
- ・地元で芸術活動を行うことで全国的に有名な福祉施設があるのに、知られていない。全国で盛り上げられれば。
- ・特別な選手でなくても何かの形で参加できることがあるとよい。
- ・誰もが参加できる絵画や美術の作品展、音楽等複合的かつ総合的なフェスティバル形式。
- ・日常生活の中で子どもたちの身近に文化芸術と言われるものがあり、子どもが興味を持ったタイミングに合わせて安心できる仲間や支援者たちに見守られ参加できる環境づくり。
- ・パラリンピックの聖火リレーがあると障がい者の代表が表に出て頑張るので見ている障がい者にも意識・意欲を持つ事が出来る。

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク

1. 団体の概要・目的

本発達障害ネットワーク(JDDnet)は、発達障害関係の全国および地方の障害者団体や親の会、学会・研究会、職能団体などを含めた幅広いネットワークです。

我が国における発達障害を代表する全国組織として、従来制度の谷間に置かれ支援の対象となっていなかった、あるいは適切な支援を受けられなかった、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害のある人およびそのご家族の権利と利益の擁護者として、理解啓発・調査研究・政策提言等を行い、発達障害のある人の自立と社会参加の推進に向けて活動を行っています。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

事業所単位 61 事業所

3. 団体に所属する個人の数

—

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問1の回答より抜粋）

世界自閉症啓発デー イベント アート展

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問6、7の回答より抜粋）

—

全国社会就労センター協議会

1. 団体の概要・目的

「社会就労センター」とは、社会経済活動を行っている社会福祉施設・事業所で、働く意欲がありながら障害等の理由により一般就労が困難な人々および一般就労を希望する人々が利用する下記の施設・事業所を指し、

(1)生活保護授産施設、社会事業授産施設（基準該当就労継続支援B型事業を含む）

(2)次の事業を運営する障害福祉サービス事業所、障害者支援施設。就労継続支援A型事業、就労継続支援B型事業、就労移行支援事業、生産活動を行う生活介護事業、地域活動支援センター

全国社会就労センター協議会は、社会就労センターの事業の発展を期するため、全国的連絡調整を行うとともに事業に関する調査・研究・協議を行い、かつ実践をはかることを目的としている。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

事業所単位 1,550 施設・事業所

3. 団体に所属する個人の数

—

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問1の回答より抜粋）

文化祭、県人権フェスティバル、美術展、アートコンクール、太鼓会、障害者の芸術活動発表会、アート活動、バンド活動、陶芸・絵画・手芸・茶道・織物・ペーパークラフト・銭太鼓・トールペイント・和太鼓等のサークル活動。

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問6、7の回答より抜粋）

- ・障害者が作成した芸術作品の展覧会。小さなアートを集めた全国レベルの作品展を全国巡回展にする。作品だけでなく、その創作過程・エピソード等が分かるもの。
- ・多くの方に障害者自身について、また、全国で各施設・事業所がどのような文化芸術活動を行っているかなど活動について知ってもらえる場づくり。
- ・世界各国の障害者による絵画展。
- ・それぞれに個人で参加できる、パフォーマンス（ダンス）や音楽（歌）などの参加型イベント。
- ・地方や県を代表する芸能（踊り等）の発表。
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック関連の文化イベントに、あたり前のように障害者が参加していること。障害者が生き生きと活動できるようなイベント。
- ・県内に音楽活動を業務として年間数十回のコンサートを行っている施設・事業所がある。そのような施設・事業所を対象として演奏技術の向上や活動の励みとする目的でブロックや全国的なコンテストの場があれば良い。
- ・定期的（年1回程度）に、各県における文化活動について、全国での成果発表などができる機会があれば今後の励みになる。
- ・製作活動について、優秀作品の表彰と広報による情報発信、および障害者アーティストの認定登録など。
- ・文化活動は多岐にわたっているため、やる気のある職員、経験のある職員の存在にかかっている。また、文化芸術活動を進めたいが人材不足の団体等を支援する仕組みを考えてほしい。

1. 団体の概要・目的

DPI日本会議は、種別を超えた障害当事者団体が集まる組織で、「DPI」は Disabled Peoples' International（障害者インターナショナル）の略である。DPIは国際的障害者運動のネットワークとして1981年に結成された。国連の特別諮問資格を持つ国際NGO（非政府組織）であり、世界本部はカナダのオタワにある。現在130カ国以上が加盟、世界6ブロックに分かれて活動している（日本はアジア太平洋ブロックに所属）。DPIの目的は「障害者の機会均等と障害者組織の発展及び支援による権利の獲得」である。DPIは日常生活や社会生活を営む上で障害者がこうむる不利の原因は個人の障害ではなく社会の環境にあるという社会モデルの考えに基いて活動している。DPI日本会議はDPIの国内組織として1986年に発足した。身体障害、知的障害、精神障害、難病等の障害種別を超えた93団体が加盟している[2017年3月現在]。現在の議長は平野みどりである。地域の声を集め国の施策へ反映させること、国の施策を地域へ届け、地元の活動に反映させること、この「国の施策と各地域活動の相互関係」が草の根団体の連合体であるDPI日本会議の活動の基本である。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

ブロック単位 1 ブロック 事業所単位 93 事業所

3. 団体に所属する個人の数

—

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問1の回答より抜粋）

映画上映や講演・シンポを通して福祉を考える「福祉映画祭」、障害があってもなくても音楽を愛する気持ちは同じというテーマでの「ロック フェスティバル」、障害当事者・一般のアーティストによる音楽イベント、釣り大会、餅つき大会、写真展、絵画展、映画鑑賞、落語鑑賞、音楽鑑賞、地域住民との交流を目的とした音楽と朗読の会、よさこい踊りのサークル活動と発表会、劇団形式で今日の差別事例を寸劇にまとめて発表、バンド活動、ギター・ピアノ練習会等。

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問6、7の回答より抜粋）

- ・障害者スポーツのデモンストレーションイベントや文化芸術活動（音楽、演劇、お笑い、美術、映画等）が、一般市民と交流できる形で、人目につきやすい場所でおこなわれるとよい。
- ・全国各地でおこなわれているお祭りやイベントへの参加や発表ができる機会を設けるとよい。
- ・障害者達の小さな写真でパラリンピックマークをかたどったポスターを作る。
- ・世界の中で、日本ほど呼吸器ユーザーが地域生活を送れている国はないと思うので、その、医療的、福祉的充足度をアピールできるイベント。
- ・障害者がいろいろな文化芸術を体験できる場が欲しい。
- ・健常者の文化イベントにも、“当たり前”に障害者が参入しているようなイベントが良い。
- ・障害当事者が主体になってイベントを企画・運営することもよいと思います。
- ・障がい者が製作するオリパラのポスターの展示会。
- ・オリパラ開催国のバリアフリー写真展。
- ・重度の障害がある人でも表舞台で活躍できるようなイベント。
- ・全国ネットワークを中心に、最初はひとつ、それが市町村や県単位を越えて…という風に繋がっていけるような取り組み。
- ・映画製作（障がい者に対する先入観や偏見を払しょくするような）。

全国社会福祉法人 経営者協議会

1. 団体の概要・目的

本会は、社会福祉の主たる担い手である社会福祉法人を会員とする全国で唯一の団体であり、社会福祉法人の事業経営の強化・充実を図り、もって我が国社会福祉の充実と発展に寄与することを目的に活動しています。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 47 県経営協

3. 団体に所属する個人の数

7,513 法人

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問 1 の回答より抜粋）

マーカー展、もみ絵展、リズム体操、利用者・職員合同サークルによる人形劇を地域の学校、社会福祉施設等で公演、利用者作品個展開催、絵の展覧会、ピアノ・ハンドベル演奏、手話発表会。

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

—

全国身体障害者施設協議会

1. 団体の概要・目的

重度の身体障害者への支援を中心に行う障害者支援施設等を会員とする組織で、「最も援助を必要とする最後の一人の尊重」「可能性の限りない追及」「共に生きる社会づくり」という基本理念の実現をめざし、障害者支援施設・事業所を利用する障害者と在宅障害者の生活支援の展開に資することを目的に、関連制度施策の検証・調査研究・要望、個別支援の質を高め制度施策の理解を深めるための研修、情報提供等を実施。

「最も援助を必要とする最後の一人の尊重」「可能性の限りない追求」「共に生きる社会づくり」の実現を基本理念に掲げ、「利用者」「職員」「事業所（者）」、それぞれを支援する組織たることが、基本方針。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 47 団体 ブロック単位 7 ブロック 事業所単位 513 事業所

3. 団体に所属する個人の数

—

4. 文化芸術活動の取り組み状況

（アンケート問 1 の回答より抜粋）

記録大賞、障がい者福祉展、文化講演会、音楽祭・演奏会、施設内クラブ活動発表会、文化祭（作品展示・販売・その他地域への開放）、フラワーアレンジメント、施設利用者の絵画・書道等の作品を募集し、法人カレンダーに掲載、七宝焼・書道・琴・陶芸・さおり織り・民謡・生花・車椅子ダンス・料理・手芸・ゲーム・紙手紙・貼り絵・ちぎり絵・書道・俳句・太鼓・コーラス・染め・絵画等のサークル活動、映画鑑賞、演劇クラブ、ローリングバレーボール大会。

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か

（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

- ・障害種別の垣根なく、障害を問わずにみんなが参加できるようなもの。
- ・障がい者芸術などを通じたあらゆる人の参加・交流と地域の活性化などや、障がい者を含む多様な人々との交流を通じた多様性への理解が促進できるようなイベント等。
- ・障がい者による講演会、作品展、コンサート、オリ・パラ宣伝ポスターや応援ソングの募集。
- ・既存のイベントを特別展として拡大し、パラリンピックを盛り上げる。
- ・障害当事者が企画運営するイベントを開発する。
- ・障害の方々がコラボ出来るようなイベント（音楽+ダンス+演劇）。
- ・公募による展覧会。国際的な評価を受ける貴重な機会である。
- ・このアンケートで都市部と地方の温度差を感じた。
- ・オリンピック開催をきっかけにして、継続的な取り組みにしていきたい。
- ・イベント名に「障害者」が明記されずに行われるような開催が必要。
- ・芸術作品のみならず、パフォーマンス的な表現（太鼓・音楽・演劇・ダンス・デザイン・ファッションショー等）も加えた総合イベント（芸術祭）の開催。
- ・作品そのものより、作成する過程の違いが重要。それを伝える手段があると良い。
- ・各県単位で障害のある美術系作家、音楽・ダンス系アーティスト等の状況を把握していくことなどは、地域共生社会づくりへと繋がる。その全国ネットワークがあると良い。

1. 団体の概要・目的

定款より抜粋

(目的)

第3条 この法人は、障害者自立支援法に基づく相談支援専門員が、障害者の地域生活を支援する目的で、障害者ケアマネジメントを基本とした中立、公平な相談支援活動を実践するとともに、自らの資質の向上に努めることをもって、障害者の自立した生活支援に資することを目的とする。

(事業)

- ①障害者福祉の増進に関する事業
- ②障害者福祉に係る調査研究に関する事業
- ③その他

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

—

3. 団体に所属する個人の数

—

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問1の回答より抜粋）

広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス（広島市と共同開催のアート展覧会）、映画上映会・演奏会（福岡県 JOY 倶楽部）、作品応募、アーツスペース（絵画・陶芸）、デイサービスプログラムに芸術活動を取り入れている（芸術士派遣）

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問6、7の回答より抜粋）

- ・一時的な活動でなく、継続可能なイベントであってほしい。
- ・販売会など。
- ・障がいの有無にかかわらず表現活動を共に楽しむことができるイベント。
- ・障がいをもつ人が中心にワークショップを開催。直接的に彼らのアートに触れる場をつくる。
- ・先進地のアート活動に触れられる機会を多くの施設（就労・生活・児童）で実施。
- ・ライブペインティング（音楽と美術の組み合わせ）。
- ・作品制作のプロセスが分かるようなイベント。
- ・各団体が特化した文化活動を行い、情報交換・公開し、表現には色々な形があることを伝えていくことができるイベント。
- ・全国巡回型の展覧会、スタッフ勉強会。
- ・各団体がおもしろいと思うイベントを企画してプレゼン大会を開く。
- ・選ばれた企画に取り組み精度をあげていく。

1. 団体の概要・目的

この法人は、精神保健福祉に関わる支援者が連携し、精神障がい等のある者及びその家族等が地域社会の中で孤立せず主体的に健康的文化的な暮らしができるよう支援する活動を行い、精神保健福祉の推進に寄与することを目的とする。

この法人は、目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1)精神保健福祉に関わる支援者が地域と広く連携をとれる活動を行う。
- (2)精神保健福祉に関わる支援事業を利用する本人とその家族等の要望に応えられる活動を行う。
- (3)精神保健福祉に関わる支援者の技量向上と連携を促進させるよう情報を共有し、研修等を行う。
- (4)精神保健福祉の啓発を広め、各分野との連携を高め協働を図る活動を行う。
- (5)その他、この法人の目的達成のため必要な事業を行う。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 37 団体 市町村単位 106 団体 事業所単位 131 団体

3. 団体に所属する個人の数

—

4. 文化芸術活動の取り組み状況

（アンケート問 1 の回答より抜粋）

利用者が制作した作品の展覧会、出し物発表、地域交流会、文化のつどい、書道展、演劇公演、活動報告祭、書き初め大会（模造紙2枚分の大きさの紙に書をかく）、影絵サークルおよび発表会、アートサークル、けん玉、エアロビ、芸術祭舞台発表（ギター、ハーモニカ）、文化交流会（歌と劇）、一般講師主宰によるワークショップの開催、絵手紙、陶芸、クラフト、ウクレレ教室、映画鑑賞サークル、写真ワークショップ、さをり織り、音楽活動（ドラム練習等）、手工芸部。

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か

（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

- ・障害のあるなしは関係なく、全ての人が作り、参加できるイベントになれば良い。
- ・ダンスや演奏、合唱の発表ができる場、芸術作品・写真の展示会など。
- ・日本文化を伝えられる様な和太鼓等の伝統楽器の演奏や、全国的に盛んなヨサコイ等。
- ・現地に行けない人も参加できるようなイベント。
- ・オリンピック・パラリンピック後も継続できるようなイベント。
- ・当事者が大会スタッフやボランティアとして、会の支え手になれること。
- ・障害理解を深められるような映画祭。
- ・障がい者が所属するオーケストラによる各国の国歌演奏。
- ・それぞれの団体の特性を活かしたグループの合同発表会など。
- ・障害者アーティストから普通のアーティストとして携わられるような人材の育成・発掘。
- ・障害者アーティストとして活躍されている方々のシンポジウム等。
- ・様々な芸術分野が協力して複合的なイベントが開催されると良い。

1. 団体の概要・目的

平成17年まで全国各地の手をつなぐ育成会・知的障害者福祉協会・発達障害支援協会・知的障害養護学校PTA連合会・障害者福祉作業所協議会・社会就労センター協議会などの関係者によって知的障害児者の互助会事業を運営・展開してきていたが、平成18年度の保険業法改正により互助会事業が運営できなくなったため、この法律の施行を機に発展・充実させた協会として設立された。

当会は、知的障害児者・自閉症児者とその日常生活相談、就労、権利擁護などに関わる各種支援事業を主たる事業として行い、特筆すべきこととしては加入者に対しての病気・けが・賠償責任などの知的障害者向け専用保険「生活サポート総合補償制度」が利用できる。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 45（1 政令指定都市含む）

3. 団体に所属する個人の数

都道府県単位 120,669 人（2017.1 末現在）

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問1の回答より抜粋）

知的障害児者音楽活動発表会、障害児者アートコンペティション、アールブリュット作品コンテスト、作品展示会、絵画教室作品展、支部活動助成事業、ちぎり絵の作成と芸術祭出展、新年親子の集い（バレー鑑賞など）、文化祭、舞台発表会、音楽発表会、太鼓教室および和太鼓演奏会、フラワーアレンジメント教室。

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問6、7の回答より抜粋）

- ・障害者本人のライブ、障害者の芸術・文化の作品のコンテスト。
- ・アート作品展示、授産品の販売を当事者が企画運営できるような体制での開催。
- ・パラリンピックの公式グッズを作り、そのデザインを障害者から募集する。
- ・全国の施設利用者が参加できるイベント（例えば、利用者の手形や足型等の展示）。
- ・知的障害関係・施設、事業所で本人の作品展示、販売及び食品の販売。
- ・障害者の芸術作品を照会できる場づくり（例えば、世界のアート展、ユニフォームのデザイン、手提げ袋や飲料の缶のデザインなど）。
- ・国際的な音楽会、展覧会、映画祭など。
- ・出場選手との交流ができる催し物。
- ・健常／障害の壁がなくなる社会をイメージできるイベント。
- ・関係者だけのイベントにならないように多くの人が参加できるような運営が必要。
- ・全国各地で障害者の芸術文化フェスティバルを開催。
- ・国際交流、文化活動支援（コンサルティング）、都道府県や地域での専門家（生け花、音楽、陶芸、ダンス等）の派遣。

1. 団体の概要・目的

公益財団法人 日本ダウン症協会（JDS）は、ダウン症（正式名は「ダウン症候群」）に関する知識の普及啓発、情報の提供、調査研究、ダウン症のある人たちとその家族に対する相談等を行い、ダウン症のある人たちとその家族の福祉の増進に寄与することを目的としています。

そのために以下の事業を行っています。

- (1) ダウン症のある人たちとその家族に対する相談
 - (2) ダウン症に関する情報の提供
 - (3) ダウン症に関する知識の普及啓発
 - (4) ダウン症に関する調査研究
 - (5) そのほか、この法人の目的を達成するために必要な事業
- 各都道府県に 54 の地域に支部・準支部を持つ（東京は区単位で支部・準支部をなしている）

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 40 団体 市町村単位 15 団体

3. 団体に所属する個人の数

都道府県単位 2,819 人 市町村単位 729 人 その他 2,044 人

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問 1 の回答より抜粋）

ダンスサークル及び発表会、ピアノ演奏・空手演武・バレエの各自の活動発表、ブンネメソッド・ラブジャンクス体験、ダウン症の日記念作品展絵画・習字・写真・工作、音楽活動、ハンドベル、ハンディキャップヨガ、リトミック、なんでもかくし芸、絵遊び教室、ヘルマンハーブ。

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

- ・開会式、閉会式、歓迎イベントに参加しダンスパフォーマンス等を行う。
- ・障害者と健常者が一緒に作り上げるパフォーマンス。
- ・障害者による作品を使った会場の装飾。
- ・あらたに企画するのではなく、健常者の企画に参加する。もしくは、健常者とともに開催するもの。普段障害者に係り合わない人たちがイベントに参加することで自然と巻き込まれるようなものが良い。
- ・障害を持った方々への理解が進まないイベントを開催しても意味がないと思う。
- ・アンケートの中から活動している文化芸術活動の多いものを選び専門家集団でパラリンピックに関連したイベントができるのかを考える。
- ・都市部だけではなく、地方での活躍を紹介しパフォーマーを選出するものもよい。
- ・障害者の作品で公式グッズ販売。
- ・絵や書道なら、会派を通して障害専門の先生を全国ネットで紹介するなどの情報共有。
- ・国がもっと積極的に目を向けて発信をしていかなければ広がらないと思います。
- ・ダウン症に限らず、手をつなぐ育成会 自閉症協会をはじめとする全国ネットの団体と協力しあい大きな力としなくては実現しないと思います。
- ・親が付き添わなくてもボランティアスタッフ等の協力をいただきながら共に参加したい。

1. 団体の概要・目的

当団体は、みんなで楽しむ映画鑑賞のあり方の研究、開発をすすめてきました。バリアフリー上映とは、聴覚障害者用の日本語字幕と視覚障害者用の音声ガイドを両方つけた映画を上映することをいいます。

今回開発された新しい映画の視聴技術である UDCast とは、目や耳の不自由な方、そして外国の方も一緒に映画を楽しめる技術です。耳の不自由な方は字幕表示用のメガネを使って、また目が不自由な方は手持ちのスマートフォンなどの携帯端末を使って、いつでもどこでも一般の観客と一緒に映画を字幕付き、音声ガイド付きで鑑賞することが可能になります。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

—

3. 団体に所属する個人の数

その他 20 人

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問 1 の回答より抜粋）

—

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

- ・さわれる美術館の全国展開（視覚障害者、こどもたち）。
- ・ダイアログインザダークの展開（晴眼者による疑似体験）。
- ・UDCast の技術を活用した、美術館、博物館における視覚、聴覚障害者支援（多言語化も可能なので、外国の方も楽しめます）。
- ・さまざまな障害をひとくくりにされがちであるので、文化イベントを通して、各障害特性を知っていただく機会となればいい。
- ・視覚障害、聴覚障害、それぞれグラデーションがあること＝高齢者対応の取り組みイベントにもつながれば。
- ・子どもから、お年寄りまで一緒に楽しめるイベントを意識してほしい。

1. 団体の概要・目的

「児童を一人格として尊重しながら、先づ不自由な箇処の克服につとめ、その個性と能力とに応じて育成し、以って彼等が将来自主的に社会の一員としての責任を果たすことが出来るよう」家族と社会の間に立って、家族を支援し、社会を啓発し、肢体不自由児が最も恵まれた環境にいられるようさまざまな事業を行っている団体。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 42 団体

3. 団体に所属する個人の数

—

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問1の回答より抜粋）

・手足の不自由な子どもの作品並びに友情の作品コンクール、美術展、作品展、写真展、芸術祭、ふれあいフェスティバル、チャリティー墨書展、共生をめざす作文、音楽サークル、サヌキ・ロックンロール・サーカス、銭太鼓、親子の旅、コンサート、物づくり調理研修会。

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問6、7の回答より抜粋）

- ・全国規模の公募展の開催
- ・競技者とアーティストがコラボできるイベントの企画。
- ・プレ大会で、書道アートとの共催や、練習会場に障害者アートの設置。
- ・芸術展の開催、舞台ステージの発表。
- ・ダンスや音楽のサークル活動を行っている事業所等をピックアップし、それぞれがコラボして地域で練習したのち、最終的には映像を交えて同時に配信する。
- ・パラリンピックで実施される競技種目のデモ競技を全国各地で開催する。障がい者スポーツと連携したイベント。
- ・パラリンピックと併合の芸術祭。
- ・地方だとイベントが少ないので、東京パラリンピックに絡めた催事があると参加機運があがる。
- ・県の代表作を出して全国大会（障害種別等考慮し、各部門代表）。
- ・ハンドアーチェリー大会。
- ・子どもたちが参加できるようなイベント。車いすの車輪のカバーデザインコンテストを開催し、入賞作品を実際に車いすに付けて、パラリンピック関連イベントに参加する。
- ・障害者の描く絵画や制作するものに対してその作品を評価し対価をつける。作品が障害者の生きる糧となれば。
- ・音楽の好きな人が、身近なところで行きまわっているサークルや事業所などを知れるよう、ネットワークができればと思う。情報が共有できるようなシステムの構築。
- ・子ども（特別支援学校在籍児童生徒等）にも対象を広げて参加できるように。
- ・ハンドアーチェリーを障害種別を超えて取り組んでほしい。
- ・全国ネットワークの取り組みとして各団体と合同で、展示会を開催したい

特定非営利活動法人 手話ダンス YOU & I

1. 団体の概要・目的

失くした能力を嘆くのではなく残された力を育て、今という時代を手話ダンスを通して障害者の方と助け合って生きていきたいと思いますという団体です。

2. 会員となる構成団体（支部等）の数

都道府県単位 21 団体

市町村単位 45 団体

3. 団体に所属する個人の数

都道府県単位 約 1,000 人

市町村単位 500 人余

4. 文化芸術活動の取り組み状況（アンケート問 1 の回答より抜粋）

チャリティーセミナー手話ダンス、手話ダンス発表会、高齢者施設訪問、各地のお祭り参加
障害者とのイベント、手話ダンスサークル。

5. 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どのような文化イベント、取り組みが必要か（アンケート問 6、7 の回答より抜粋）

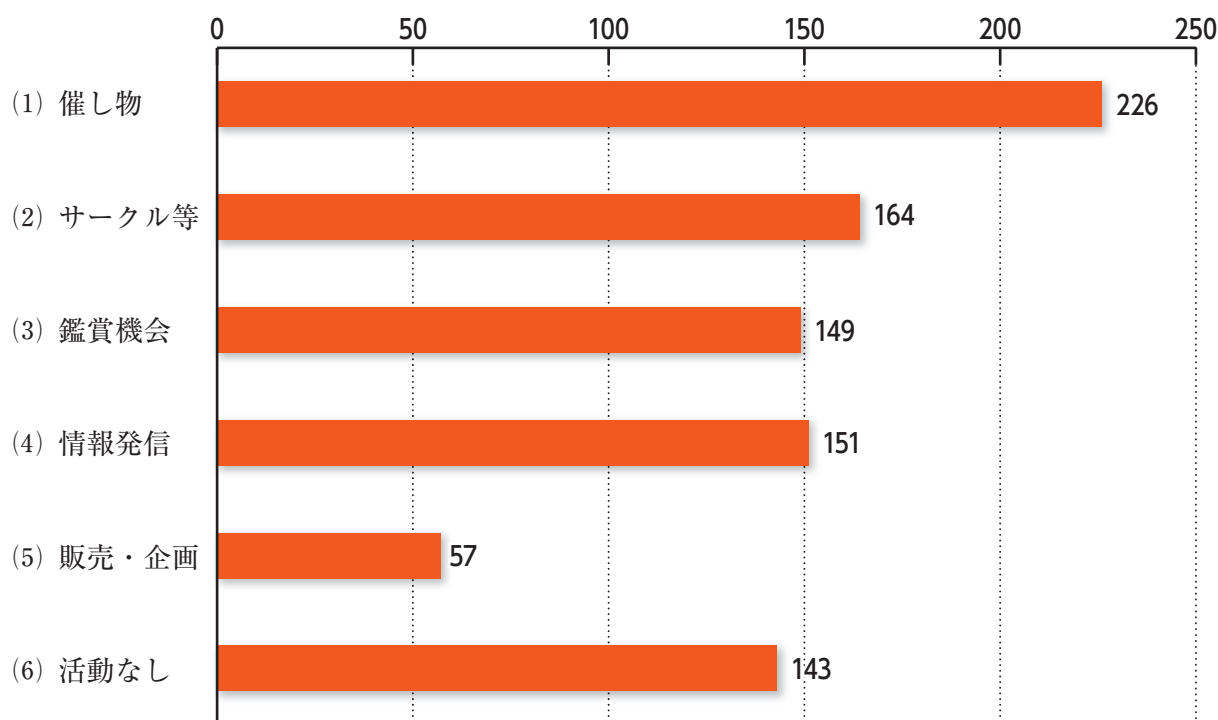
- ・個人によって ADL が違うので、音楽・ダンスを通じて目標に、向かって活躍されると良い。
- ・皆が楽しく音楽に合わせて踊るダンス披露。
- ・知的・聴覚障害があっても音楽の合わせて体を動かすことは大好きで大勢が楽しんでいる。そんな皆が集まって更に大きな発表になれば。
- ・パラリンピックにて障害者が活躍する前夜祭があることの PR が必要と思う。
- ・ダンス披露。
- ・大きな感動を与えられるような素晴らしいイベントに取り組んでほしい。手話ダンスがその一端を担うことが出来れば嬉しいです。
- ・手話コーラス、手話ダンス。
- ・障害者が明るくいられるなら何でも可。
- ・各団体の特性を生かし、〈YOU&I では〉聞こえない方の立場に立って作品を作り、手話・ダンスが素敵であると実感してもらい、また誰もが参加できるよう門を広げていく。
- ・明るく楽しく元気になる手話ダンスに取り組んでいく。

(ii)-2 集計結果

活動実態調査

問1 文化芸術活動の状況についてあてはまるものに○を付けてください。(複数選択可)

(1) 団体・会・支部・事業所等が主催する文化芸術関係の催し物（文化芸術活動の発表等）がある（あった）	226	55.5%
(2) 団体・会・支部・事業所等が主宰する文化芸術関係のサークル等の活動がある（あった）	164	40.3%
(3) 団体・会・支部・事業所等が企画する文化芸術鑑賞の機会がある（あった）	149	36.6%
(4) 団体・会・支部・事業所等が発行する機関誌（紙）や書籍、ホームページで作品や写真の紹介をするなど、文化芸術活動に関する情報の発信をしている	151	37.1%
(5) 団体・会・支部・事業所等が取り組む、造形作品等の販売企画・デザイン企画などを行っている	57	14.0%
(6) 団体・会・支部・事業所等が主催、企画する文化芸術関係の活動はない	143	35.1%
	890	n = 407



(1) 団体・会・支部・事業所等が主催する文化芸術関係の催し物（文化芸術活動の発表等）がある（あった）

チャリティーコンサート音楽鑑賞／書道写真コンテスト／芸術文化祭・芸術祭・フェスティバル／障害者作品展／障害者週間啓発イベント障スポ・レク体験／音楽祭／身体障害者福祉展／ウェルフェアアート展／高齢者会員による川柳発表会／俳句・短歌・川柳等の作品を募集、表彰／カラオケ発表会／芸能大会／UD映画／フラダンスサークルの発表会／俳句大会／演劇祭典、写真コンテスト、将棋大会／文化養成講座、文化講演会、トークショー／手話コーラス、手話ダンス、手話劇、和太鼓、手話落語／療育的音楽／品展示会（絵画・習字・写真・手芸品・陶器類）／さおり織展／クラシックコンサート／芸術家を招いての製作ワークショップ／バンド演奏発表／ソーラン節の踊り発表／親子ドラマケーション／親子でゴスペル・合唱を発表／リズムダンス・ジャズ体操・音楽レクリエーション／ファッションショー／福祉団体の存在・活動を市民に啓発／舞踊会／らくがき大会／映画上映や講演・シンポを通して福祉を考える「福祉映画祭」／地域住民との交流を目的とした音楽と朗読の会／釣り大会／記録大賞／生活福祉講座／フラワーアレンジメント／地域の文化祭への参加・出展／影絵発表会／茶道表千家の先生を招いてお茶会／レザークラフトワークショップ／ブンネメソッド・ラブジャンクス体験／チャリティーセミナー手話ダンス／高齢者施設訪問

(2) 団体・会・支部・事業所等が主宰する文化芸術関係のサークル等の活動がある（あった）

俳句教室／オカリナ教室／邦楽クラブ／カラオケ教室／短歌／ダンス教室・サークル／合唱／囲碁クラブ／UD映画／将棋／コーラス／フラダンス／編み物・手芸／音楽／折り紙教室／生け花教室／料理教室／コーラス／オーディオサークル／川柳クラブ／生花／民謡／漢点字／茶道／写真／美術／劇団／手話／健康体操／太鼓／ハンドベル／七宝焼／詩吟／陶芸／墨絵／フライングディスク／ボーリング／スイミング／ミュージックケア（音楽療法）／さぬきロックンロール・サーカス／車いすダンス／よさこい踊り／パドル体操／親子でゴスペル／エンジョイ活動／折り紙教室／ビーズ教室／身体表現／さおり織／ポンポンダンス／エアロビダンス／鳴子踊り／絵画療法講座／陸上教室等／権利擁護セミナー／ロックバンド／琴／民謡／ウクレレ教室／影絵／ハンディキャップヨガ／ヘルマンハーブ／リトミック／手話ダンスサークル

(3) 団体・会・支部・事業所等が企画する文化芸術鑑賞の機会がある（あった）

落語・漫才・大喜利等の演芸会／音楽／コンサート／ミュージカル・演劇／手で触る博物館見学／ジャズオーケストラ／バリアフリー映画／クラシック音楽／アカペラコンサート／にじの家コンサート（由紀さおり姉妹）／展覧会／アフリカ太鼓／吹奏楽コンサート／オールディズライブ／絵本ライブ／母親のための癒しのコンサート／さおり織の発表会・展示会／クラシックギターコンサート／歌謡ショウ／劇団四季のミュージカルへの招待／人形劇／カンカン石（サヌカイト）オペラ／他県のアール・ブリュット展／アメニティーフォーラム／ダンボールシアター／手話演劇／知的障害者のミュージカル／腹話術鑑賞／二胡演奏会／木下大サーカス／吉本新喜劇／神楽／フラダンス／沖縄芝居／オカリナ演奏会／バリアフリー映画祭

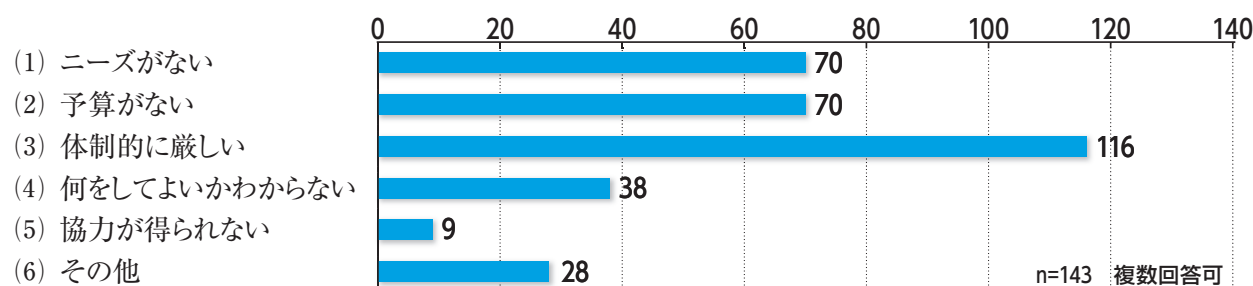
- (4) 団体・会・支部・事業所等が発行する機関誌（紙）や書籍、ホームページで作品や写真の紹介をするなど、文化芸術活動に関する情報の発信をしている

高齢者部会で発表された川柳句集の発行／会報で文化祭、ダンスパーティー、コンサート等を案内／文芸作品の掲載／アトリエなど文化芸術活動の案内掲載／他団体主催の文化芸術活動案内の掲載／機関誌に会員の施設紹介、活動状況、作品、受賞作品を掲載／芸術文化祭の公募展案内を配布し、施設や関連団体にPR／書籍出版（作品集、絵本、自立生活運動史、ピアカンマニュアル等）／障害者作品展の応募のお知らせ／音楽ボランティアの活動などを会報で発信／絵・詩の募集／パンフレット表紙絵・デザイン、チラシ・ポスター・パンフレット／施設で常設展示、作品募集案内／芸術祭の図録を発行／コンサート等のイベント紹介／展示会毎にDMの発行／ホームページ、ブログ、Facebook、テレビ、雑誌、新聞等／当事者さんの作品をつかったクリアファイルを作製して無料配布／施設玄関や廊下を展示場所として活用／情報提供メール配信／年賀状の図案を募集し、応募作品を会報で紹介

- (5) 団体・会・支部・事業所等が取り組む、造形作品等の販売企画・デザイン企画などを行っている

手芸、さおり織等展示即売会／障害者の作品を製品化し、県や市直営の販売所やバザー、作業所等で販売／マグネット・ピン、アクリルタワシ、アクセサリー、ストラップ、DVD、CD、タオル、缶バッジ、しおり、ポストカード、カレンダー、メモ、便箋等の作成及び販売／牛乳パックを利用したイス、はがき作り／干支の木工品を販売／デザインTシャツを作り大会のユニホームとして活用／アート作品をチョコレートやパンのパッケージやイベントポスターに採用／創作担当で商品開発について話し合いの場を設け、新しい商品づくりに取り組んでいる／自閉症シンボルマークのブローチづくり／才能のある利用者の発掘のため、作品（商品）作りの依頼を行っている／飲みやすいコップを作成／年3～4回程度ショッピングモールで授産施設の商品販売を実施／生産活動で製作した布製品、マットなどを町民文化祭や短大の学園祭などで販売／震災復興支援・文化芸術活動支援としてグッズの販売・デザイン企画／地域活動支援センターで、陶芸作品の販売／研修チラシ他メンバーにデザインを依頼／レザークラフトの展示・パステルアートの展示／今後「ギャラリーの設置」を予定

- (6) 団体・会・支部・事業所等が主催、企画する文化芸術関係の活動はない

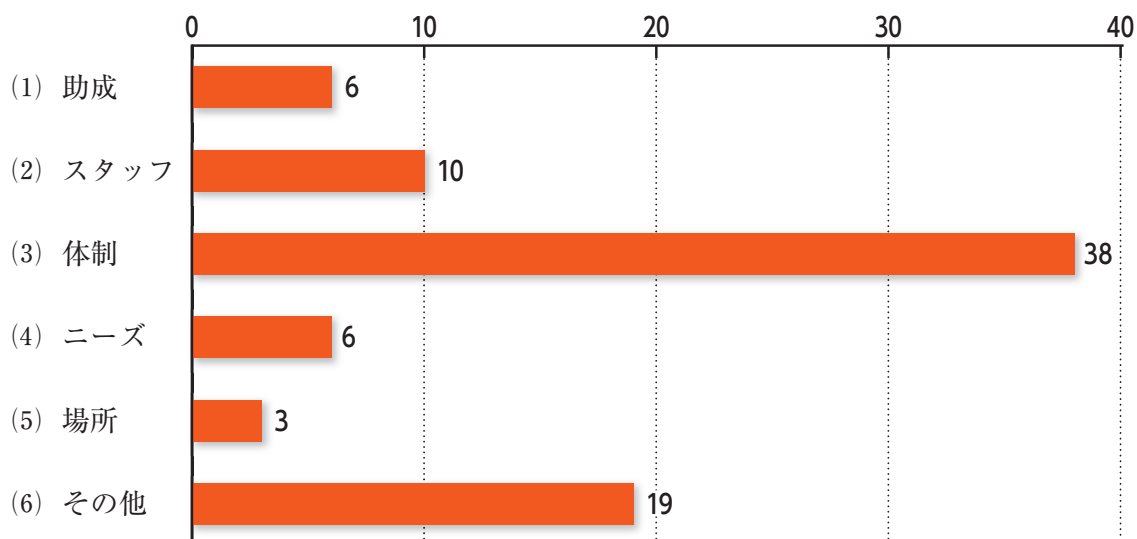


〈その他〉

会員の高齢化／県域の障害者美術展や発表会への参加機会がある／今後検討したい／医療的ケアに対応できるスタッフの確保が困難／施設や作業所で取組み／場所がない／指導者がいない／個人的な活動になっている／文化芸術活動団体への助成や連携、協力を検討中／事業所に時間的な余裕がない、就労Bは作業がメイン／施設・事業所が個別参加しているので、県段階で特別に行う必要性を感じない。／県や市町村等で主催しているため／障害者団体連合会等で開催／県育成会が開催のため／スポーツ関係を進めてきたが、文化芸術関係は今後の課題／開催場所の確保

問2 問1で(1)～(3)を選択し、頻度として「今はしていない」と回答された団体等にお尋ねします。
その活動がなくなったのはどのような理由からですか？

(1) 助成がなくなったから	6	6.5%
(2) 活動を支えていたスタッフや指導者がいなくなったから	10	10.8%
(3) 体制が厳しくなったから	38	40.9%
(4) ニーズがなくなったから	6	6.5%
(5) 活動場所の確保ができなくなったから	3	3.2%
(6) その他	19	20.4%
	82	n=93



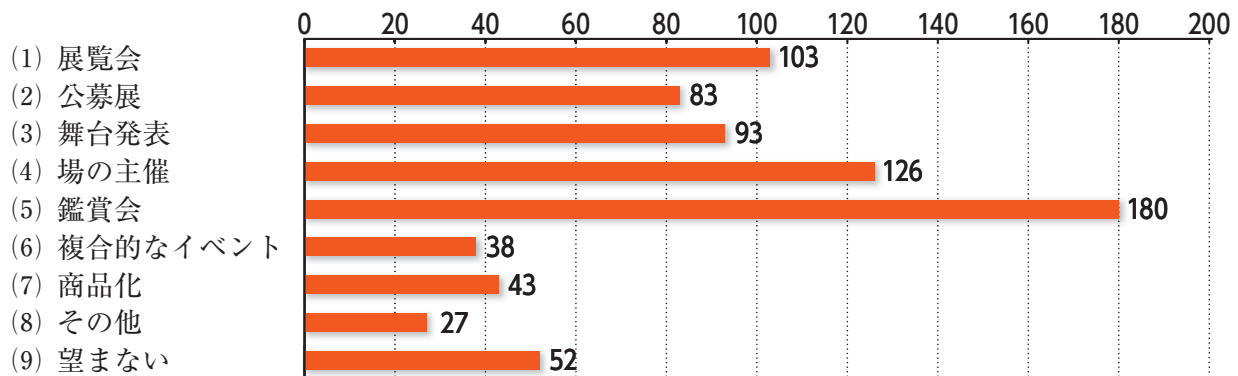
(6) その他

予算が捻出できなくなった／会員の高齢化による参加人数の減少／詳しい理由は不明だが数年前から実施されていない／例外的に過去にやったことがある／ヘルパーによる外出支援により可能／市の美術館に展示したことがある／他の活動が多く余力がない／時間的余裕がない／当施設で行わなくても、他で行われるようになり、一定の役割は終えたと判断しているため／元々していない／やりたい気持ちは大きいし、スタッフも美術、音楽他指導できる者もいる。しかし、時間がとれない。予算がついて人が増えればできるのだが……／市の連合会単位で行っていたが、区の単位でも開催がみられるようになったから／元々やっていない／資金面で余裕がない／フリーライダーの増加／単ぱっでの開催はできるが継続は難しい／時間の確保ができなくなった／資金不足

ニーズ調査

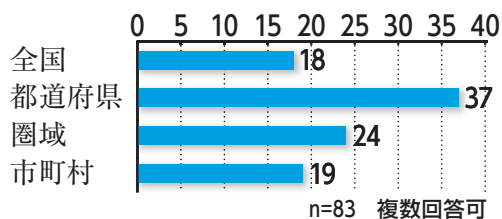
問3 貴団体等において新たに、または更に文化芸術活動をするとしたら、どのような活動を望まれますか？（複数選択可）

(1) 会員が制作した芸術作品の展覧会の開催	103	25.3%
(2) 公募展の開催	83	20.4%
(3) ダンスや音楽等表現の舞台発表会の開催	93	22.9%
(4) サークル、教室等、会員が活動する場の主宰	126	31.0%
(5) 鑑賞会の企画	180	44.2%
(6) 文化芸術に関する複合的なイベントの開催	38	9.3%
(7) 障害者の文化芸術活動の成果の商品化など	43	10.6%
(8) その他	27	6.6%
(9) 新たな（更なる）活動は望まない	52	12.8%
	745	n=407

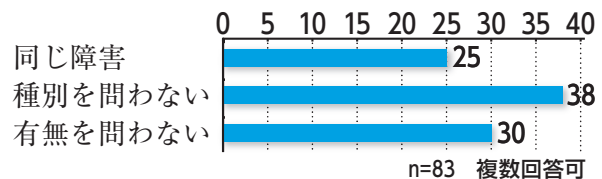


(2) 公募展の開催

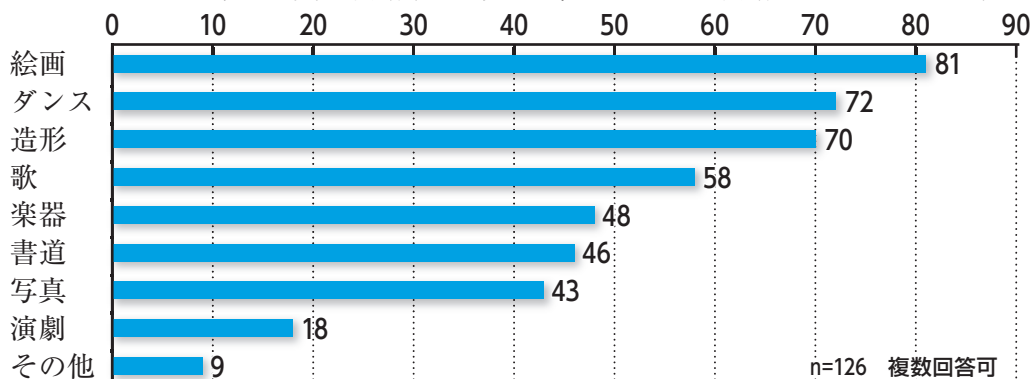
公募の範囲は？



公募の対象は？

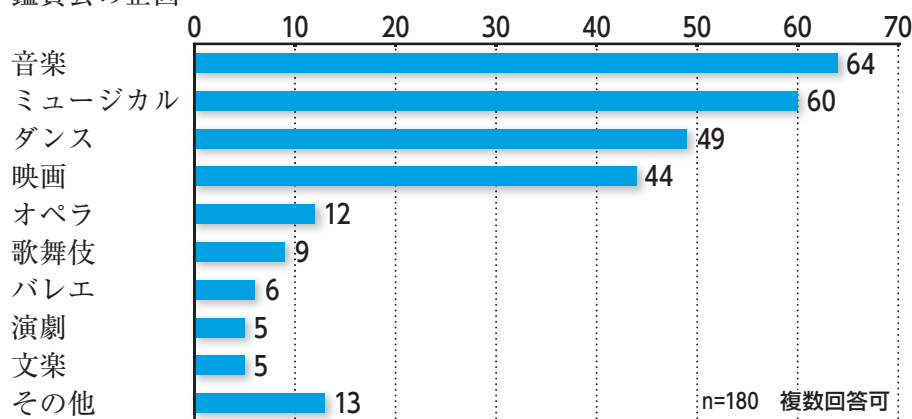


(4) サークル、教室等、会員が活動する場の主宰 ⇒どんな活動をイメージしますか？



〈その他〉スポーツ等／ミュージカル、音楽／郷土・民族芸能／パソコンによる作図など／その方が体験してみたいと思うものならなんでも！／全部／スポーツ

(5) 鑑賞会の企画



〈その他〉音声ガイド付き映画鑑賞／落語／各種スポーツ／「吉本新喜劇」や「8時だよ全員集合」のようなもの／造形、写真／書道展

(6) 文化芸術に関する複合的なイベントの開催 ⇒どのようなイベントをイメージしますか？

展示会、音楽、来場者と一緒に取り組めること（モザイクアート、ペインティング等）／単に展覧会を行うのではなく、まちの良さや強み、例えば観光や食・歴史といったものと掛け合わせたイベントを開催したい／舞台発表と作品展の同一会場での開催／アート、音楽、ダンス、いろいろ楽しめる／一人でも多くの人に当事者さんの作品を生で観ていただく機会を増やす必要がある／障害の有無に関わらず、一緒に制作したり、音楽やダンス等をする作品展とコンサート、映画上映の同時開催／パラリンピックに向けたイベントで藍染とコラボしたもの／ライブイベント等／「障害者だから」といって特別されず、その文化芸術のジャンルに興味がある人や長けている人が集まる企画／ミュージカル／フェスを開催する／同時多発的に多様な文化活動が展開／ワークショップと展示・即売会／ダウン症の日関連としておきの音楽会／各地域のダンスパフォーマンスを中央で開催／自身の車いすに自作のホイルカバーを付けてイベントに参加／障害者の方と観客が一体化

(7) 障害者の文化芸術活動の成果の商品化など ⇒どのような取組をイメージしますか？

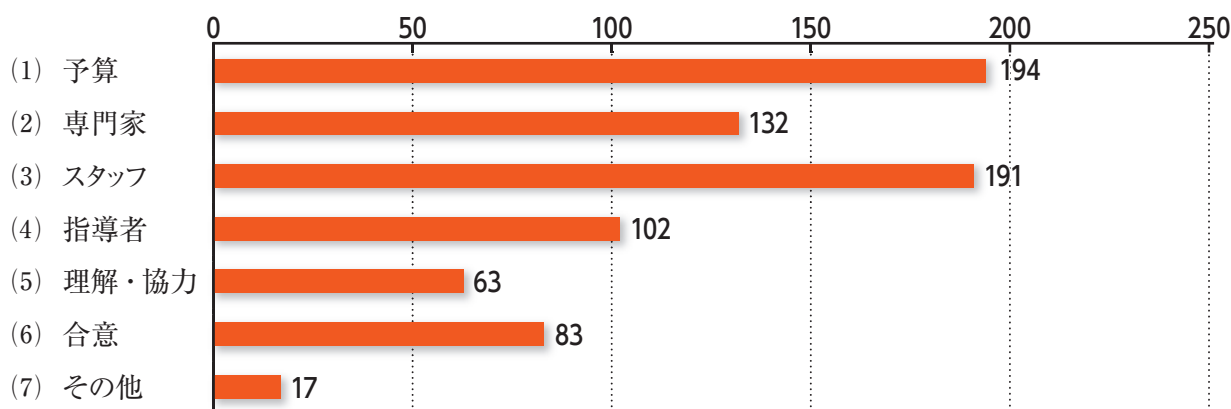
絵画等造形作品、Tシャツ、トレーナー、陶芸、織物、ポスターカード、オリジナルグッズの展示即売会／商品化したいが作品数が少ない／カレンダー製作／会場での参加体験コーナー設置／プロのスポーツ活動が行われている場所での販売／CD、DVD販売、楽曲著作権登録／デザインを授産品等への活用／CD、DVD、バンド関連グッズ／他事業所とのコラボ商品の開発／利用者の作品と地域の作家や職人と面白いものを作っていく／日常が楽しくなるようなグッズ制作／作品を様々な商品とコラボしてパッケージのデザインに採用する／一般企業の商品から教科書の表紙などあらゆるものに製作活動による成果物の定期的な発表と販売会等（アーティストの発掘と制作活動支援、アーティストのデータベース化）／流木アートの販売／手作り市やマルシェの開催／社会参加／ブランド化する当事者の方と一緒に、または教わりながらの造形の体験／即売会でのサイン会、講演会など／一般企業とのタイアップ／名刺作成／絵画等の利用エコバック作成販売／作業所等の製品の販売本人によるパフォーマンス製品紹介または商品の制作の過程の紹介

(8) その他

文化講演会／会員減少でニーズが少ない／ダンスは車いすダンス／市町育成会の活動に委ねる／作品制作の実演／単独主催は困難／高齢者施設での文化芸術活動の発表と交流（会員施設のニーズに即した内容）／現在の活動を充実させる／地域の芸術活動をしている団体からの声掛けによる参加が精一杯の現状／素人であることは当然だが、その素人としてももう少しレベルアップした形で、今日の差別実態を訴えていきたい。あるいは、地域生活への移行の課題を提起していきたい／利用者の創作物の保管場所がない。創作の占有スペースを確保できない／ショッピングセンター等での作品の販売／地域のサークルやクラブの発表の場／地域イベントへの参加（音楽発表会等）／文化芸術活動の指導者派遣／出展費用の無料を希望／ナイスハートフェスティバル／発表の場の提供／機関誌へ障害者の作品掲載／特別支援学校の文化祭への支援

問4 問3で(1)～(7)を選択した団体等にお尋ねします。どのようなことがあったら、そのことが実現すると思いますか？（複数選択可）

(1) 予算があったら	194	47.7%
(2) 専門知識を持つ人からのアドバイスが得られたら	132	32.4%
(3) そのことを担当するスタッフを配置できたら	191	46.9%
(4) 指導者が確保出来たら	102	25.1%
(5) 周囲の理解・協力が得られたら	63	15.5%
(6) 団体等内の合意が得られたら	83	20.4%
(7) その他	17	4.2%
	782	n=407



(5) 周囲の理解・協力が得られたら⇒具体的にどのようなことが得られたら良いですか？

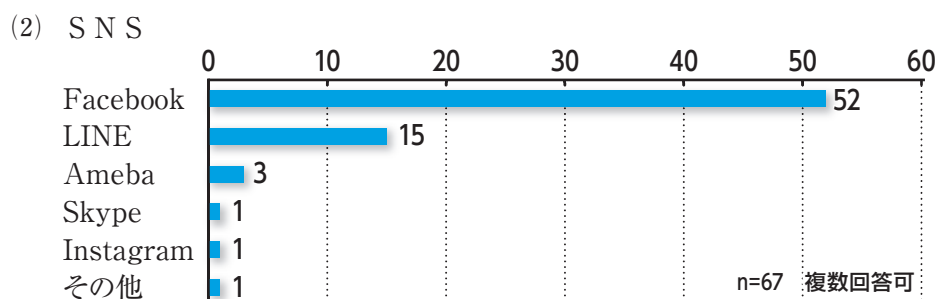
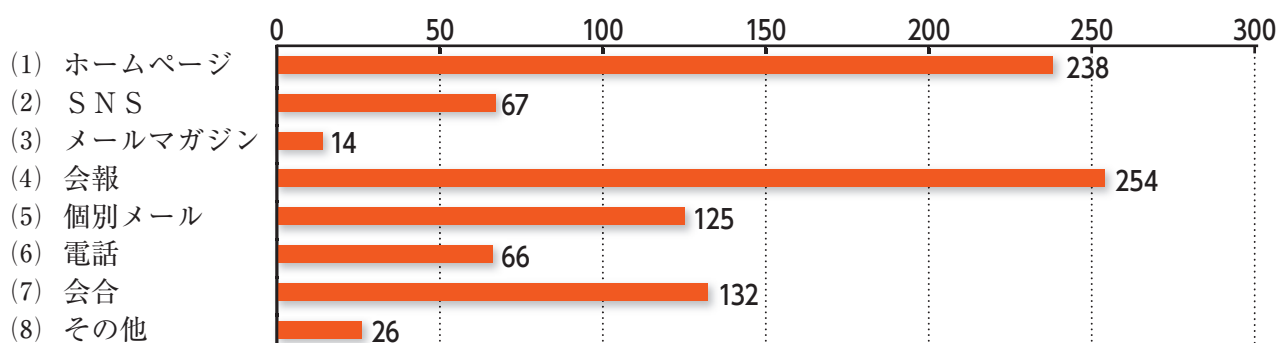
発表の場とボランティアの確保／時間の確保／実施スタッフの協力／外部からの協力体制／行政、学校の協力／地域の理解が得られること／企画の段階から意見調整／中核コーディネート（主催）が成立し、集客と運営の目途／文化芸術活動に取り組む意義や価値を理解してもらい、必要に応じて援助してもらえたら／利用者の思いや制作過程に対して理解と魅力を感じてもらえたら／積極的に関われる環境の整備／会場、教室等への子どもの移動手段の確保ならびに子どもに親が付き添わなくても活動できる環境／助言でも良いので企画から携わってもらえる共催者／業務以外の取り組みに関わることについて、利用者の理解や役職員間の協力が必要／他事業所、近隣の団体と連携が取れること／利用者、会員の賛同と積極的参加／地域の方々に運営委員になっていただく／芸術、文化関係者とのつながり／進んで産する意欲

(7) その他

本人の希望を訊ねる／参加する本人たちの要望にこたえる企画／評価し得る人＝評論家・芸術家からの発信を通じて一般市民の障がい理解を促進する／関係者の意欲と情熱／企画し、実行をリードし指導頂ける人がおられれば可能／人員の確保が難しく、日常業務で精一杯。措置制度時代は余裕があって利用者と楽しめたが、今は介護業務に追われている／映画館の理解／ウェアブル端末の低コスト化／機器の取り扱いのしやすさ

問5 貴団体等に関する情報（文化芸術活動に限らない全般的な情報）を、会員や外部と共有する方法としてどのような手段をお持ちですか？（複数回答可）

(1) 団体等のホームページ	238	58.5%
(2) SNS	67	16.5%
(3) 会員向けのメールマガジン	14	3.4%
(4) 機関紙、会報の発行	254	62.4%
(5) 電子メールで個別送信	125	30.7%
(6) 電話による連絡網	66	16.2%
(7) 定期的な会合での伝達	132	32.4%
(8) その他	26	6.4%
	922	n=407



(4) 機関紙、会報の発行頻度

月1～3回、年1回～6回

年1回発行が最も多く、次に月1回、年2回、月2回が多い。

(7) 定期的な会合での伝達実施頻度

月1～2回、年1～20回

月1回が最も多く、次に年1回、月2回、年3～4回が多い。

(8) その他

音楽CD版によるお知らせ／郵送による文書の告知／点字図書館の広報誌／支部長を通じての周知／月1回各地域父母の会会長会議・理事会年4回／郵送／会報の発行を準備中／支部長へファックス・電話・メールの連絡網／取組みが不十分／FAXにて参加申込と開催案内を同時案内／展示会のDM発行／会発行の情報誌／FAX／会員向けのML／地域活動支援センターに掲示、自立支援協議会で告知、三障害支援センター連絡会にて告知他／県育成会の会報／各地区から伝達／県育成会のHP／総会資料配布／他団体から広報依頼／県教育委員会に依頼

今後の取組について

問6 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障害者が活躍する、どのような文化イベントが開催されるとよいとお考えですか。

最先端の福祉機器の展示会や体験会。障害者の国際的な理解が得られる／国や都道府県、全国ネットワークが協同で、全国的に目に留まるイベントを継続的に展開していく／開会式や受け付け、閉会式などでその時々に関体の活動をPRする／日本の福祉の魅力を、全世界に発信できるきっかけとなるイベント／多くの方に障害者自身について、また、活動について知ってもらえる場づくり／障害者の文化芸術活動が、一般市民と交流できる形で、大型ショッピングセンターのイベントブースや駅のコンコース等、人目につきやすい場所でおこなわれるとよい／世界の中で、日本ほど呼吸器ユーザーが地域生活を送れている国はなく、その、医療的・福祉的充足度をアピールできるイベント／障害者のイメージが変わるようなもの／障害者の問題が表現されているもの／障害者の自立と社会参加の促進の主旨において、あらゆる芸術作品のコンクールやスイーツ、お菓子の展示販売／共生社会の実現に向けた各障がい種別の方々の語り場の提供（誰もが参画できる）／パラリンピックにて障害者が活躍する前夜祭があることのPRが必要／東京オリンピックに関連・題材とした芸術・アート活動のイベント／バリアフリー映画上映会／障害を持ったミュージシャンやアーティストに関する情報提供／音楽コンサートや和太鼓の演奏会／障害のある人とない人が音楽を通じて楽しみ、理解を深めるコンサート／障害が重くてもイキイキ参加できるイベント／楽器演奏等／ライブペインティング（音楽と美術の組み合わせ）／障がい者が所属するオーケストラによる各国の国歌演奏／パラリンピックの公式グッズを作り、そのデザインを障害者から募集する／パラリンピックと併合の芸術祭／パラリンピックに合わせたスポーツをテーマとした芸術展の開催／地方や県を代表する芸能（踊り等）の発表／健常者と障害者が一緒に発表する機会／障がい者に限定したイベントは、好ましくないと考えます／あらたに企画するのではなく、健常者の企画に参加する／障害のある人や家族の「生活実態や課題」にも着目していただき、障害理解や差別解消も取り上げる／子どもたちが参加できるようなイベント／車いすの車輪のカバーデザインコンテスト／「参加型」のイベントを望む／特別な選手でなくても何かの形で参加できることがあるとよい／あたり前のように障害者が参加していること／UDCastの技術を活用した、美術館、博物館における視覚、聴覚障害者支援／開閉会式等のセレモニーで、ダンス、器楽演奏、和太鼓、トーンチャイム、オペレッタなどを演じる／イベントに関する情報発信について、多くのメディアの参入を望む／トーチラン会場周辺でのトーチランに連動した文化イベント（演奏・展示）／アスリート（特に地元パラリン出場アスリート）を応援するイベント／当事者が大会スタッフやボランティアとして、会の支え手になれること／2020年にこだわることなく、持続可能な活動となる企画を望む／重症児・者も参加できるような音楽を中心としたイベント／パラリンピックの開会式に重症児たちも参加したい／手話コーラス、手話ダンス／地方では難しい／公募による展覧会／さわれる美術館の全国展開／障がい者が製作するオリパラのポスターの展示会／障害の種別を越えて参加できるフェスティバル等／パラリンピック開会式・閉会式のテーマ曲等を障害者が担当する

問7 全国ネットワークの各団体が連携して、どのような文化イベント等に取り組んでいくのが良いとお考えでしょうか。

東京オリンピックに関連・題材とした芸術・アート活動のイベント／障害理解を深められるような映画祭／バリアフリー映画上映会／障害を持ったミュージシャンやアーティストに関する情報提供／障害のある人となない人が音楽を通じて楽しみ、理解を深めるコンサート／大写真展・書道展・絵画展・巡回展／音楽コンサート／作品制作のプロセスが分かるようなイベント／障害者と健常者が一緒に作り上げるパフォーマンス／ダンス／出場選手との交流ができる催し物／障がい者スポーツと連携したイベント／障害者の障害者による障害者のためのコンサート、演劇、グッズ作り等／パラリンピック公式グッズのデザインを障害者から募集／パラリンピックと併合の芸術祭／地方や県を代表する芸能（踊り等）の発表／障害の有無にとらわれない合同のイベント／日頃からの情報共有・柔軟な取り組み／障害を強調せずに活動を伝える／健常／障害の壁がなくなる社会をイメージできるイベント／障害者がいろいろな文化芸術を体験できる場が欲しい／障害当事者が主体になって企画・運営することもよいと思う／2020年東京オリンピック・パラリンピック関連の文化イベントに、あたり前のように障害者が参加していること／障害種別の垣根なく、障害を問わずにみんなが参加できるようなもの／参加型で、既存の障害者イメージの枠にとらわれないもの／UDCastの技術を活用した、美術館、博物館における視覚、聴覚障害者支援／式典への参加／海外来訪者をおもてなしする各地でのイベント開催／開会式に全国の障がい者のバンドが一同に会してオープニングを飾る／障がい者の人たちと作る「わかりやすい街」作り／一時的な活動でなく、継続可能なイベントであってほしい／重症児・者も参加できるような音楽を中心としたイベント／パラリンピックの開会式に重症児・者たちも参加し、心のバリアフリーを唱えたい／特に障害が重いとされる人達の輝きが実感できる文化的イベント・作品展等／聖火ランナーへの参加／大勢で踊れるイベントが開催されたら楽しいと思います／手話コーラス、手話ダンス／全国各地での作品巡回展や発表会／都市部だけではなく、地方での活躍を紹介しパフォーマーを選出するも／命の輝きをテーマとした作品を募り展示、案内役に障害者・支援員を配置／障がい者のアート芸術活動が複数会場でたくさんの人に観てもらえること／世界各国の障害者による絵画展／多くのジャンルが連携する文化イベント／障がい児者の個性や才能を通じて、障がい児者に対する国民の理解が将来の世代にわたって深まるような文化イベントの開催／当事者を主役としたアート、舞台表現など、障害がユニークですばらしい個性と感じられるイベントをボードレスに行う／上野公園での大展示会と演劇発表会／障がい者が製作するオリパラのポスターの展示会／パラリンピック選手育成のためのチャリティコンサート／パラリンピック開会式・閉会式のテーマ曲等を障害者が担当する／特に精神のハンディを持つ方には、内にある感情をバクハツさせるべく、芸術活動の推進をはかりたい／子ども（特別支援学校在籍児童生徒等）にも対象を広げて参加できるように／音楽の好きな人が、身近なところで取り組まれているサークルや事業所などを知れるよう、ネットワークができれば

アンケート考察

今回のアンケートでは、本ネットワークを構成する26団体のうち、22団体の回答を得ることができた。各団体の組織形態や活動内容が様々であるため、今回の報告では、回答のあった内容をできるだけ忠実に抽出して記載している。

今回のアンケート実施を通して、各団体が2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化イベントの開催について、大きな期待が寄せられていることをあらためて知り得ることができた。そして、ほとんどの団体が共通して、障害の有無に関わらず共に参加し、楽しむことができる文化イベントの開催を望む意見を寄せている。また、主な意見の一つとして、「全国組織の強みを活かして、東京だけでなく、いろいろな地域で文化イベントが開催されると良い」「東京や都市部だけでなく、地方でも国際的なコンサートや舞台芸術を開催して欲しい」「全国巡回展の開催」等、全国津々浦々での文化イベント開催を期待されていることが伺えた。

以下、各設問項目の集計結果をもとに、アンケート結果を整理することとする。

[活動実態調査]

各団体の文化芸術活動の状況は、半数を超える55.5%が、支部、事業所等が主催する文化芸術関係の催し物（文化芸術活動の発表等）がある（あった）と回答した。一方、自らが企画する文化芸術関係の活動はないと回答したのは35.1%であった。活動がない理由は、「体制的に厳しい」が最も多く、「ニーズがない」「予算がない」がその後に続いている。また、以前は活動をしていたが「今はしていない」理由についても、40.9%が「体制が厳しくなったから」と回答している。

団体からの回答にもあったように、文化芸術活動を推進していくため、人材不足の団体等を支援する仕組みを構築していく必要があると考えられる。

[ニーズ調査]

既存の活動に加え、新たに取り組みたい活動については、44.2%が「鑑賞会の企画」と回答した。その内容については、「音楽」が64%、「ミュージカル」が60%、「ダンス」「映画」と続いた。鑑賞会の次に、多くの回答があったサークル活動など「場の主催」については、その内容に81%が「絵画」を挙げ、「ダンス」72%、「造形」70%であった。「商品化」は10.6%の回答があり、他事業所や一般企業とのコラボレーションによる商品作りを望む声が複数あった。

一方で、「新たな活動を望まない」という回答も12.8%あった。先述の人材不足などにより、現状の活動を続けることで手一杯であると考えられる。しかしながら、既存の活動だけでなく、チャンスがあれば新たな活動にも取り組みたいという回答は多くあり、全国ネットワークがその情報交換の場となることを目指したい。

[今後の取り組みについて]

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けては、聖火ランナー、開会式、閉会式などの式典や関連イベントへの参加を希望する回答が複数あった。障害者が取り組む、音楽・舞台芸術等を式典で披露したり、ポスターなど広報ツールのデザインを障害者から募集したり、参加型の企画を望む声が多く見られた。重度の方でも参加できるイベントを期待する回答や、障害種別を問わず障害者についての正しい理解を進めたいという回答もあった。

一方で、障害の有無を問わないイベントが当たり前に行われるべきという回答も多くあり、障害理解を進めながら、さまざまなボーダーを超えた文化イベントを企画していくべきであると考えられる。

総括

今回、全国レベルの障害者団体が集っての2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワークの取り組みは、障害者関係の活動の歴史の中でも特記すべき出来事と言える。ネットワークの構成団体同志が協働することで、団体間のさらなる連携強化が図られ、障害者の文化芸術活動の裾野が拡大される事を期待している。

特に2020東京オリ・パラの開催に向けて始動した文化オリンピックアードの精神のもと、障害のとりえ方が多様になるとともに、成熟した日本社会のなかで障害者の存在と果たす役割が、更なる深みを持つことに期待をしている。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会文化により示された文化オリンピックアードのコンセプト

〔目的〕

文化は、スポーツと同じく、人々に感動を与え、豊かな人間性を涵養し、想像力と感性を育むなど、人間が人間らしく生きるための糧となるものである。

これらは正に、オリンピック・パラリンピックの精神に通じるものであり、オリンピック憲章においても、文化の重要性について、以下のように謳われている。

「オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。」

【オリンピック憲章「オリンピズムの根本原則」より抜粋】

オリンピックはスポーツと文化の祭典であり、文化の取組は、全国どこにいても、誰もがオリンピック・パラリンピックに参加することを可能にするものである。

東京2020組織委員会は、政府、東京都、スポンサー、全国の地方公共団体、文化芸術団体等と連携し、より多くの人々をオリンピック・パラリンピックに巻き込み、全国各地におけるオリンピック及びパラリンピックムーブメントを盛り上げるため、多様な文化プログラムを展開する。

2020年より先の未来に日本や世界の文化を継承していく。

文化オリンピックアードでは、2016年をキックオフとして位置づけ、既にいくつかの企画が進められてきた。更に一年後となる今年は拡大期間、続くオリ・パラ本番の年には、東京2020フェスティバルとして位置づけた行程が示されている。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワークにおいてもこの工程にあわせた取り組みを進めていく必要がある。今回の調査でも各団体の意向には、文化オリンピックアードの流れに呼応しながら、オリ・パラ本番のステージへの参加意欲も示されている。ネットワークの動きを活用しながら障害者の社会参加とその機会の尊重のみならず、レガシーとしての関わりを意識していくことが重要であることが把握された。引き続き活動を活発にしていくと共に必要な支援や施策に関わりを求めていく必要がある。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク
事務局長 田中正博（全国手をつなぐ育成会連合会）

2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた 障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク 運営組織図

会長 久保厚子（全国手をつなぐ育成会連合会）

構成団体（障害者団体等の 26 団体によりネットワークを構成）

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会 | 14. 全国社会就労センター協議会 |
| 2. 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 | 15. 特定非営利活動法人 DPI 日本会議 |
| 3. 社会福祉法人 日本盲人会連合 | 16. 全国社会福祉法人経営者協議会 |
| 4. 一般財団法人 全日本ろうあ連盟 | 17. 全国身体障害者施設協議会 |
| 5. 一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会 | 18. 特定非営利活動法人 日本相談支援専門員協会 |
| 6. 社会福祉法人 全国重症心身障害児（者）を守る会 | 19. 一般社団法人 日本精神保健福祉事業連合 |
| 7. 全国手をつなぐ育成会連合会 | 20. 一般社団法人 全国児童発達支援協議会 |
| 8. 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 | 21. 一般社団法人 全国知的障害児者生活サポート協会 |
| 9. 特定非営利活動法人 全国地域生活支援ネットワーク | 22. 公益財団法人 日本ダウン症協会 |
| 10. 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会 | 23. 特定非営利活動法人 バリアフリー映画研究会 |
| 11. 一般社団法人 日本精神科看護協会 | 24. 社会福祉法人 全国盲ろう者協会 |
| 12. 一般社団法人 日本自閉症協会 | 25. 社会福祉法人 日本肢体不自由児協会 |
| 13. 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク | 26. 特定非営利活動法人 手話ダンス YOU & I |

ネットワーク事務局 全国手をつなぐ育成会連合会

事務局長 田中正博（全国手をつなぐ育成会連合会）

連携・協力

〔厚生労働省補助事業〕
障害者の芸術活動支援モデル事業連携事務局
（平成 28 年度連携事務局
社会福祉法人グロー〔GLOW〕）

国際障害者交流センター
（愛称：ビッグアイ）

ネットワーク事務局と障害者の芸術活動支援モデル事業連携事務局、国際障害者交流センター（ビッグアイ）が緊密な連携、協力体制を構築し、障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワークの運営を行う。

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
全国ネットワークによる障害者芸術推進事業 報告書

2017 年 3 月 31 日発行

制作・発行 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク

構成団体	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会	全国社会就労センター協議会
	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会	特定非営利活動法人 DPI 日本会議
	社会福祉法人 日本盲人会連合	全国社会福祉法人経営者協議会
	一般財団法人 全日本ろうあ連盟	全国身体障害者施設協議会
	一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会	特定非営利活動法人 日本相談支援専門員協会
	社会福祉法人 全国重症心身障害児（者）を守る会	一般社団法人 日本精神保健福祉事業連合
	全国手をつなぐ育成会連合会	一般社団法人 全国児童発達支援協議会
	公益財団法人 日本知的障害者福祉協会	一般社団法人 全国知的障害児者生活サポート協会
	特定非営利活動法人 全国地域生活支援ネットワーク	公益財団法人 日本ダウン症協会
	公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会	特定非営利活動法人 バリアフリー映画研究会
	一般社団法人 日本精神科看護協会	社会福祉法人 全国盲ろう者協会
	一般社団法人 日本自閉症協会	社会福祉法人 日本肢体不自由児協会
	一般社団法人 日本発達障害ネットワーク	特定非営利活動法人 手話ダンス YOU & I

発行責任者 久保厚子
(2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク
会長／全国手をつなぐ育成会連合会)

監修 田中正博
(2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク
事務局長／全国手をつなぐ育成会連合会)

編集 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク
事務局 全国手をつなぐ育成会連合会

写真 大西暢夫

印刷製本 サンエクセル株式会社
